

# 多摩川流域の石垣調査

2002年

岡崎 学

羽村郷土研究会

# 目 次

はしがき .....	1
結 果 .....	1
奥多摩町 .....	2
青 梅 市 .....	5
羽村市・福生市 .....	6
養沢川流域 .....	8
今後の展開 .....	9
[資料編] 写真集 .....	11
あとがき .....	70

第2001-37号  
(財)とうきゅう環境浄化財団助成事業

調査研究課題

『多摩川流域の石垣調査』

2002年3月31日

調査研究者

〒205-0014

東京都羽村市羽東2-17-52

羽村郷土研究会 岡崎 学

# 多摩川流域の石垣調査

## はしがき

多摩川の延長は、公式には138kmである。古多摩川が造成した河岸段丘崖の上下には人々の生活があり、そこには、土地を確保するために石垣が数多く築かれている。特に上～中流域には数多くの石垣があり、そのほとんどが当然のように多摩川産の石を用いている。このたびの調査は、上流部では山出しのゴツゴツした石、中流部では角のとれた丸石を用いて築かれた石垣を中心に調査した。古いものや個人の家の周囲の小規模なものは、補強材としてコンクリートやモルタルを使用していない、いわゆる空積みの石垣である。一方、同じ石垣でも、石と石の間に補強的にコンクリートなどの詰め物がしてある場合と、コンクリートが主体で石が装飾的に用いられているものがある。国道や都道などの場合、そのほとんどがコンクリートの中に石が埋め込まれているものが多く、しかも多摩川の石を用いていない場合が多いようだ。

石垣の多い地域は、西多摩地区の奥多摩町、青梅市、羽村市、あきる野市が抜群で昭島市、立川市、府中市などでも見かけるが西多摩地域の比ではない。このため、福生市以西を中心に所在調査し、併せて写真撮影した。

## 結 果

所在調査の結果、主なものは、

- ① 歴史的に価値あるものとしては、奥多摩町日原倉沢神社跡、奥多摩町川野の吉野家跡、青梅市二俣尾の海禅寺、同市大柳の荒井家、羽村市羽東先の羽村堰などがある。青梅市宮の平の石灰工場跡の石垣は、明治、大正、昭和と続いた産業遺跡として特異な存在でもある。
- ② 景観上すぐれたものとしては、奥多摩町日原の東日原付近、青梅市吹上の切り通し、福生市福生の玉川上水田村分水付近、養沢川流域ほか。
- ③ 規模が大きいものとしては、青梅市二俣尾の青梅街道の青渭通り入り口付近、青梅市河辺の段丘崖、羽村市羽東先の玉川上水取入れ口などがある。
- ④ 平成時代に積まれたものとしては、青梅市の梅郷、黒沢川、羽村市の間板の石垣などがある。これらは公共工事として施工されたもので、民間の場合は小規模か積み直し程度である。



以上の石垣のうち、④は多摩川の石・砂利採取禁止のため、山梨県や近県の河川か山岳地帯から調達した石を使用し、多摩川の石を用いていないと思われるが、地方自治体等が施工する公共工事で地形や景観に配慮して意図的に石垣を採用したことを評価した。

多摩川流域には裏山が崩れないように自分で積んだ素朴な石垣をはじめ、国道に面した広大な面積の石垣、奥多摩山中に人知れずたたずむ廃虚の中の石垣、今も現役・羽村堰と玉川上水の石垣など、有名無名の石垣がここかしこにある。今回は、その中から多摩川上流の奥多摩町、青梅市と羽村市、福生市及び秋川上流の養沢川流域の石垣について紹介したい。

## 奥多摩町

多摩川上流の石垣は、岩が砕けたものや人工的に砕いたものを使用されているものがほとんどで、日原鍾乳洞の近くにある一石山神社周辺や東日原バス停留所周辺にある石垣は、どれも「野板」とか「野角」と呼ばれるゴツゴツした天石が用いられている。

奥多摩湖と奥多摩駅を結ぶ通称『むかし道』などで見かける素朴な石垣や小河内ダム建設に伴い、現在の奥多摩周辺に造られた石垣、そして江戸時代まで溯ると思われる山葵田の石垣をはじめ、奥多摩駅周辺では、氷川小学校の敷地内に数段の石垣があり、石垣の上に校舎が建っていたり、いろいろな石垣に出会うことができる。

### ◎倉沢神社跡の石垣

東京都内には、島部を除くと単独で文化財指定された石垣はない。ここ日原倉沢神社跡の石垣は一級の文化財といっても過言ではない。古城の石垣を思わせるような風格と荘厳さを持つ立派なもの。倉沢神社付近は住む人がいなくなり、日原鍾乳洞近くの一石山神社に合祀された。倉沢神社の宝物は近くにある森林館に保存展示されているが、仏像などもあり神仏混交の名残を感じる。私が注目したのは、石垣もさることながら赤漆塗りの木箱に記された16弁の菊の紋章だ。奥多摩町教育委員会の説明では、江戸時代に上野寛永寺が直轄していた時代や輪王寺一品親王との縁から菊紋が使用されたとしている。このことは、正解なのかもしれないが、私の勝手な想像を許してもらえらるなら、天皇家の菊紋と木地師の関係がここ日原にもあるような気がしてならない。その昔、木地師たちは、文徳天皇の第一皇子でありながら藤原一族出身の母をもつ清和天皇が皇位についたため不遇の身となった惟喬親王を祖と仰いでいる。惟喬親王が落ちていたドンク

りの椀形の部分（殻斗）の形からお椀作りを考案したとされている。木曾福島に行くと大蔵、小椋、堀川姓を名乗る木地専門の店に出会う。これらの姓の方々の墓地には菊紋を彫った墓石がある。彼らの祖先は天皇家と縁があるとして墓石に菊紋を彫っていたが、戦時中、不敬であるとして菊紋を削り取らされたという。

木地師たちは、大木を求めて山々を巡り、生計を立てて来た。流浪の民として長野県や埼玉県秩父地方にも移動してきた。恐らくその中の一部の人達が峠越えて日原に入ったと思われる。木地師ではないが、奥多摩町や青梅市に多い原島姓も川越付近にあった原島村の原島丹治・丹三郎らが秩父から日原に入ってきて永住したもので秩父経由でやって来たといわれているのと同じルートである。木地師たちは、日原のトチノキ、シオジ、ミズキ、サワグルミなどを利用したと思われる。日原付近の山や谷には、有用樹木の名前を冠した地名が目につく。アララギ谷、カルメ窪、トチノキ窪、ケヤキ窪などがある。

今、奥多摩町では、巨樹の会主宰の平岡忠夫画伯が次々と奥多摩の山中で巨樹を発見し、島部を除けば日本一の巨樹最多自治体となっただけあり、奥多摩町の山中には、木地師が生活できるだけの量の樹木があったことが証明されている。

ところで、本命の石垣については、倉沢神社跡の石垣は、恐らく秩父から尾根づたいにやって来た木地師たちの一団がかかわりあっているものと思われる。城壁のような反り、山岳地域特有のごつごつした石というよりは岩を利用して築いた土地に自分たちの神を招いて神社を建てた。高さ8メートル幅20メートルほどの石垣は、中央のやや東寄りの位置に階段があり、その前に鳥居が立っている。山の岩を寄せ集めて築いた石垣は、素朴なものだが、石工の技術が読み取れる。長年月の風雪に耐え、苔むした岩の一つひとつに風格さえ感じる。石垣の間や上には樹木が生えているが、石垣そのものはびくともしない。付近には、平岡画伯が避雷針を設置したことで一躍有名になった倉沢の大檜木があるが、そこからさほど遠くない所に坂和連さんが住んでいるが、坂和本家があった所にある石垣も根っこが石垣の間に侵入していても崩れてはいなかった。石垣と樹木の相性がいいのかもしれないが、意外なところに石工の技術が隠されているようにも思えてならない。石垣にしがみついている木に聞いてみないと本当のところは分からないが、石垣の透き間から入る光や風を根っこが嫌がって奥へ奥へと根を延ばしているので石垣を破壊しないとも考えられる。

それにしても、日原では、ここかしこに石垣を見ることができるが、倉沢神社付近には、新旧の石垣があり、比較的新しいものでは、石灰採掘の人達が集団生活していた場

所には、戦後積んだと思われる石垣がたくさんある。実際に現場に立つと、よくもこんな山奥で人々はどんな生活をしていたのかと想像を絶するものがある。今、その場所は鹿や猪が闊歩して人間界ではなく動物の天下と化してしまった感があり、糞や足跡が残されている。東日原のバス停あたりから見上げると石垣なくして日原なしの感がある。石垣がこんなに人々の生活に食い込んでいるところは他にない。今までは石垣に用いる石は地元のゴツゴツした山の石だったが、最近は、新しい道ができると当然のように石垣が築かれるが、どこからもって来たかも分からないような丸い石が用いられるようになったのは残念でならない。

### ◎旧吉野家の石垣

その昔、小河内村に日指とか岫沢という地名があった。今、ここは、東京都が山のふるさと村を設置し、奥多摩町が管理している。山のふるさと村にはキャンプ場があり、野営場になっている所が吉野家があった所で家屋敷の土台として築かれた石垣が残されている。キャンプ場の管理にあっているのは地元、小河内出身の方々なので、旧吉野家の所在を尋ねればだれでも即座に場所を教えてくれるのがありがたい。

昭和40年代の前半、中野区の青少年の野外活動で当時『岫沢園地』とよばれていた所で何年間か夏休みのキャンプをしたことがある。そのころ、ここには電気がなかったので真っ暗闇を体験したり、奥多摩湖を船で渡ったりして子供たちにとってはいい経験だったようだ。山道を登って行くと草葎きの吉野家がポツンと残されていたのを覚えている。当時は、石垣に無関心だったが、今回の写真撮影で改めて旧吉野家の石垣を見直し、その形状や石の表情などに歴史を感じ、文化財の見地から保存してくれたことに感謝するとともに今後もその価値を損なわないよう期待する。

### ◎境の山葵田

境の集落には、江戸時代から続く伝統を守る獅子舞がある。集落の中心部にある山葵田は、大正11年に発行された西多摩郡名勝誌に写真で紹介されているが、新しく家が建ちはじめた関係で山葵田も縮小されつつある。奥多摩町棚沢に住む石垣職人・清水梅夫さんの話によれば、奥多摩の山中にある山葵田の中には、プロの目が見て古くからのもので優れたものが何か所かにあるとのこと。恐らく境集落の山葵田も江戸時代から受け継がれてきたもので台風たび毎に積み直されたりして来たものと思われる。

# 青梅市

石垣の街「青梅」と言っても過言ではないほど、どこに行っても石垣のある風景が素晴らしい。緑豊でアメニティ効果が高い。裏を返せば、山の斜面にへばり付いて、狭い所に石垣を築いて土地を確保し、坂道だらけの街の中に生活をしているとも言える。

## ◎青梅市立第一小学校の石垣

石垣風景が多彩な地域は多摩川流域随一の青梅市。中心地では、まず第一小学校。この石垣は校歌にも歌われているほど誰にも親しまれている。卒業式や入学式当日バックに石垣を入れて記念撮影する人達が多いという。この卒業生に限らず青梅市では、石垣と言わず『ついじ』と呼んでいる。

## ◎吹上、天竺の切り通し

市内にはいくつかの峠道があるが、東青梅から塩船観音への切り通しは、左右に石垣部分が多く、紫陽花や野の草花、そしてバックには孟宗竹の林が景観をさらによくしている。しかしながら、この切り通しの風景も南側からのみで北斜面には、老人福祉施設ができた関係で味気無いコンクリート擁壁になってしまっている所がある。同じような所が二俣尾五丁目の高水山への登り口にもある。軍畑駅方面から成木・小曾木方面への坂道には高い石垣があるが、東京都が新たに拡幅して造っている道路面の擁壁部分は、真っ白でまぶしくて品のない似非石垣そのもの。東京都建設局では、かつて川井駅前に景観を無視したどでかい吊り橋を造ったが、二俣尾の擁壁にもセンスのなさを感じるのは私だけだろうか。

## ◎海禅寺の石垣

古さでは、二俣尾駅北側の海禅寺の石垣。三田弾正忠政定の時代まで溯ると行き過ぎだが、古さと形の良さで貫禄があり、青梅市を代表する石垣だ。多分、白壁の塀を設置する際に石垣上部を積み替えていると思われるが、中ほどから基礎部分に古さの面影を残す立派なもの。

## ◎宮の平石灰工場跡の石垣

石灰と青梅線は切っても切れない関係。宮の平駅から見える石灰工場跡の石垣もユニ-

ク。元はと言えば、青梅線は石灰運搬のために敷設されたようなもの。明治37年の鉄道収入の8割近くは石灰運搬収益だったという。明治28年当初、日向和田駅だけだったのが、大正3年に宮の平駅が開業した。もちろん石灰運搬のための駅だったが、今残されている石積みの建造物は、後の時代のもので恐らくトラック輸送に対応したものと思われる。

### ◎河辺の段丘崖の石垣

大規模な河辺の段丘崖の石垣は、崖下の旧河辺本村の河辺家付近から見上げると圧巻。このような風景は、そのうちマンション建設で失せてしまうことだろう。最近、多摩川が作り出した段丘崖を利用したマンション建設が盛んで段丘崖の緑地がなくなりつつあるのが残念でならない。これらのマンションは、多摩川の景観を台なしにするばかりでなく、緑地まで減少させてしまった。これこそ、手をこまねいていた行政の怠慢ではないのか。

### ◎大柳の石垣

民有地の石垣では、旧青梅街道に面した大柳の男井戸・女井戸の隣にある荒井家の石垣は、奥に見える草葺き屋根の家と古い大きな松。石垣の間に羊歯植物などが生えていて古さと懐かしさを感じる。もちろんコンクリートなどの補強材を使用していない。この石垣には、古い青梅道の面影があり、心に安らぎを与えてくれるまさにアメニティ道路。ぜひとも青梅を代表する石垣として残してほしい。

## 羽村市・福生市

### ◎羽村堰と石垣

羽村の文化や進取の気性は、玉川上水との関係を否定できない。何のとりえもない多摩川のほとりの村に上水開通とともに江戸の風が吹いて来た。祖母の話では、明治時代になると「御一新になったんだから、そんな風習はやめなさい。」とばかり、粟穂稗穂（あぼへぼ）作りなどはやらなくなったとのこと。明治維新の新しい考え方が水道役人を通じて直輸入された羽村。そんな羽村の上水取入れ口には、今も立派なとか広大な面積をもつ石垣がある。羽村取水所庁舎から羽村南郵便局にかけておよそ400平方メートルの石垣は、いつも上流からの水圧を受けながら、さらに奥多摩街道をひた走る大型

トラックの振動にも耐え、崩れることもなく役目を果たしている。垂直に切り立った石垣としては、面積では他に類をみないほどだ。個人的には、筏落し場はもちろん羽村堰と立派な石垣のある上水取入れ口から玉川上水の羽村市・福生市境までの一体を市民の誇る文化財として羽村市で丸ごと指定していただきたいと思う。

羽村郷土研究会の柴田久一理事の話では、ここの石垣の中間よりやや上の所に人が通れる部分があったとのこと。この通路は、補修のための工食用通路なのかだれもが通れる見学用通路なのか不明だが、戦時中に取り外されたようだ。取り外された時期から想像すると、寺や神社の鐘まで供出した時代だったので戦争用具に形を変えてしまったものだろう。

ところで、話題はそれるが、数年前東京都では、玉川上水を歴史環境保全地域に指定したが、そのときに何度も何度も会合を開いて羽村市から出ている委員の中から指定地域を宮本橋から下流とするのは、異議ありとして羽村堰を含めて玉川上水を全域指定するようにがんばったが羽村市の部分をどうしても入れてもらえなかった。東京都側の説明では、羽村堰から宮本橋の区域は羽村草花丘陵自然公園条例の区域で建設局が管理しているからとの理由だった。こんな所にも役人の縄張り根性が出てくるのかと呆れたものだった。つい最近になって環境局から通知があり、玉川上水歴史環境保全地域の区域が変更になるとのこと。これでやっと羽村堰と玉川上水が一体となって指定されることになる。これだって、建設局が環境局に仕事を押し付けたにちがいないが、当初からの念願がかなったと思えばそれでいいのかもしれない。

しかし、まだまだ問題がある。羽村市民の多くは、羽村堰と玉川上水は一体なものとして認識している。にもかかわらず、このたびの東京都の考え方は、歴史よりも環境を重視したため羽村堰は除外されてしまったのだ。文化財担当の教育庁文化財担当課も羽村市民と同じ認識であるが、これから玉川上水を国の指定文化財か登録文化財に指定する場合には、羽村堰と玉川上水を一体のものとして指定するよう働きかけたいと思っている。

## ◎間坂の石垣

『まざか』と読むか『あいのさか』と読むかは別として小さい時からマザカと呼んでいた。あきる野市にも間坂の地名があるので同じ読み方をしているのだと思う。近くに住む羽村宗夫さんの話では、昔は随分狭い道で付近からはいつも清水が湧き出していたとのこと。今ある石垣は平成時代のもの。補強のためコンクリートを使用しているがれっきとした石垣。積んだのは松原村の人と羽村さんから聞いた。歴史的には間坂付近は話

題が多い。現存する寺院では羽村市最古の一峰院。羽村地名発祥の地とも思われる所でもある。田圃の中から古墳時代の遺物が発見されている。20年位前、羽村姓をたずねて山口県岩国市御庄へ行った時、羽村姓を名乗る家が20軒くらいあり、中には羽村会館などと看板が出ている建物もあった。たずねた寺は、高山寺。ここの僧侶が一峰院の初代住職になっているのだ。羽村氏は山口県から来たのではないか、僧侶が一人で来る訳がない。従者がいたとしたら、その人たちが間坂付近に住み着いたのではないかなどと考え、家紋やその他の地名などについても調べてみたが、何の発見もなかった。この時、羽村郷土研究会を立ち上げた故桜沢孝平氏も御庄に行って調査していたことがたまたまお訪ねした御庄の羽村さんから聞くことができた。そんなことで、結論は出ていないが、私自身、個人的には羽村姓は西からやって来たのではないかと考えている。なぜなら、羽村は長瀬郷の『端っこの村』だから『端村』という説明では、もっと全国に同じ名前の村があってもいいのではないか。国境いの村はみんな羽村になってしまうはずだ。

### ◎玉川上水の石垣

玉川上水の長さはマラソンコースに匹敵する。そのうち福生市域では、田村酒造の玉川上水に面した所に長い石垣がある。田村家は、江戸時代から続く名家で公共の水を個人の宅地内に引き込むことができた。通称「田村分水」の取入れ口には、小規模な石垣があるが、恐らく後世に作り替えられたものであろう。玉川上水の右岸に築かれた土塀には立派な石垣が施されているが、これは富の象徴のようなもの。邸内を流れる分水の岸辺や酒造用井戸の近くにある石垣には、歴史を感じるものがある。

現在は、架け替えられてしまったが、西多摩郡名勝誌に掲載されている玉川上水に架かる牛浜橋の写真によると、自然石を用いた石積みの眼鏡橋だったことが分かった。一見、泥臭いと言われても石積みの眼鏡橋がいつか復元されることを願望する。

## 養沢川流域

秋川上流の十里木で養沢川に入る。あきる野市の山の中に入った旧小宮村で山麓にへばり付くように集落がある。意外といっちは地元の方に失礼だが立派な石垣が多い。

養沢川の水源は御岳山を中心とした大岳山や日の出山。日の出山頂からやや下った所に崩落を防ぐために石垣が築かれている。ゴツゴツした岩の塊を積み上げたもので、まさに現場の石だけを用いた地元産石垣。上養沢周辺でも神社の境内や民家同志の通路に築かれ

た石垣などは、地元の山や川から拾い集めた石を使用している。環境的には、奥多摩町の川野や日原に似ていて石垣風景に共通点も多い。特に人家の裏山などに見る所有者自らが造った土留めや擁壁としての石垣にはプロの手にかからない素朴さが滲み出ている。

ところが、この地域には広大な山を所有する、いわゆる山持ちとか山大尽と呼ばれる裕福な家があり、他県から持ち込んだと思われるような大きな岩を用いたもの、あるいは、広大な面積を誇る石垣が見受けられる。これらは、建設会社やプロの石垣職人の手になるもので、素朴さや親しみ易さにやや欠けるが、周囲の風景や環境とのバランスの点では、問題にならないので、許容範囲の内に納まっていると言えよう。

## 今後の展開

奥多摩町や青梅市には、歴史ある石垣があり、今後、文化財としての価値を見直し指定への動きを期待したい。特に奥多摩町では、地元の郷土研究会や山村文化研究会などが石垣への関心を示しており、石垣見直しの機運が高まりつつあることを感じた。

多摩川流域や秋川流域には、まだまだ石垣を見ることができるが、多摩地域にあっては、都道や国道の擁壁をはじめ大規模建設工事などで石垣が用いられることは少なくなりつつある。しかし、青梅市のように平成時代になってからも河川の擁壁や観光地の道路の擁壁に意図的に石垣を用いている自治体もある。

都心の千代田区や港区では、街並みに玉石を用いた石垣は似合わない。そこへいくと山坂豊富で緑豊かな街・青梅市や山を背負った奥多摩町には飾り気のない素朴な石の表情がよく似合う。先般、山手線原宿駅ホームのコンクリート製ブロックを見て、原宿駅こそ緑が多いので丸い自然石を3段ほど積んだ石垣がよく似合うのではないかと思った。このような一人の思いがJR東日本にとどいて原宿駅のホームに石垣風景が創出されたとしたら喜ばしいことだ。

2002年3月に羽村市コミュニティセンターの展示ギャラリーで開催した写真展では、熱心な観覧者が多かった。歴史ある石垣だけでなく、普段見過ごされているような石垣にも非常に関心のあることが分かったことは大きな収穫であった。これからは、古い石垣や良好な景観を演出している石垣の文化的価値を大いにPRしていきたいと考えている。

以上、調査した石垣のうち、多摩の代表的な文化遺産あるいは景観として後世に残すべきと思われるものについては、関係自治体の教育委員会や文化財保護審議会等にその存在を訴え、石垣保存の気運を高めていくよう、さらに努力したい。



〔 資 料 編 〕

平成13(2001)年度  
多摩川流域の石垣調査報告書



羽村郷土研究会 岡 崎 学

# 石垣調査報告書

多摩川の水源から中流域までに分布する石垣のうち、主として景観上優れたもの、歴史的に意味のあるものを中心にリストアップし、写真で紹介します。

## 多摩川源流・笠取山 山梨県・塩山市 (01.10.27)



多摩川の水源・笠取山にある石垣。  
新しいものだが、多摩川との関係で敢えて採用した。

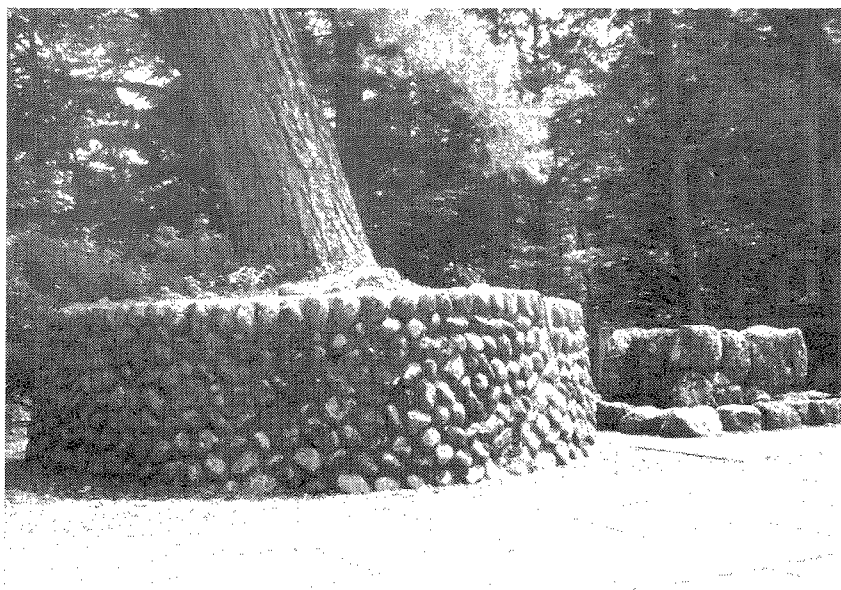


笠取山では、自然にやさしい山の木を利用した土留めがして  
あった。石よりも木を用いて環境に配慮した。

## 普門寺の石垣と夏水仙 奥多摩町峰谷雲風呂

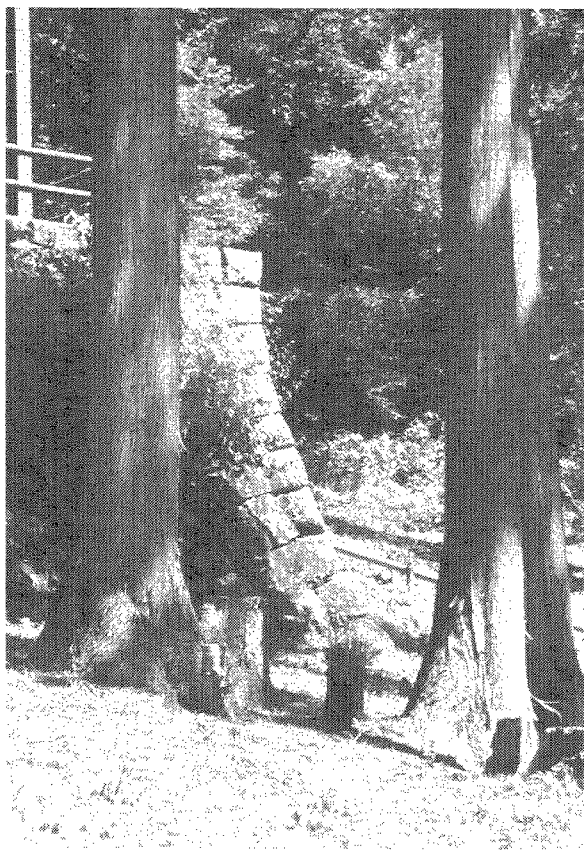


普門寺入り口の石段の脇の石垣に沿って夏水仙が行儀よく並んで咲いていた。この寺は、ダム建設に伴い昭和30年代にこの地に移転して来たものだが、山の中という環境のため、いかにも古そうな石の雰囲気だ苔むしていた。

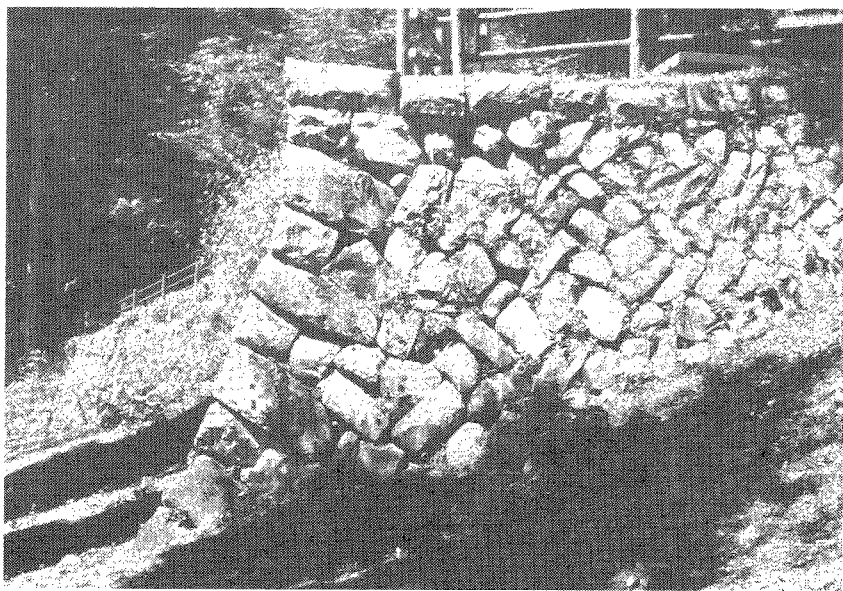


小河内神社境内にある松の木の根元を守るために石垣が施されていた。この神社は、昭和32年に水没した旧小河内村にあったものを移築した。

## 旧吉野家の石垣 奥多摩町・川野 (01.7.16)



山のふるさと村内にある吉野家跡の石垣。  
現在は、キャンプ場内の営火場になっているが、この付近には、旧小河内村時代から続く石垣が見られる。



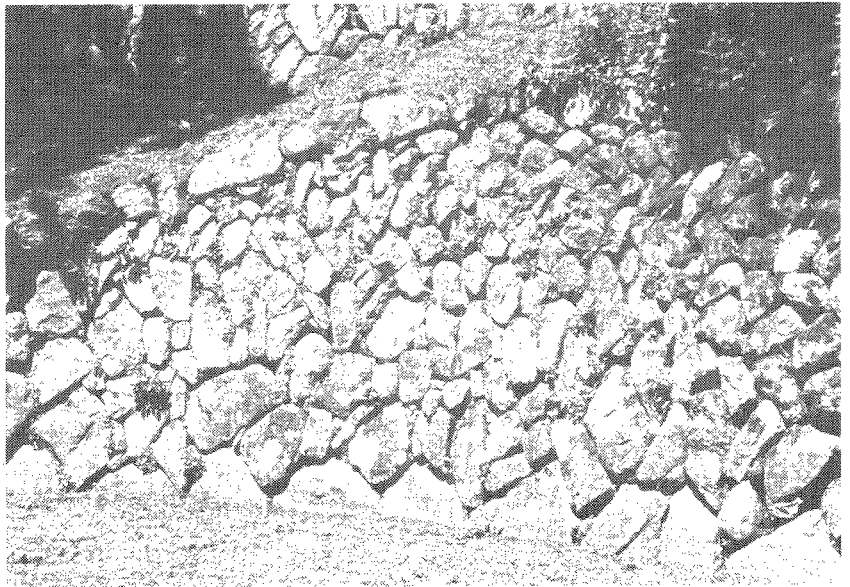
曲線を描いた石積みの様式は、城郭に見る石積みに似ているが、恐らく村人が創意工夫して積んだものと思われる。



旧吉野家跡 奥多摩町・川野 (01.7.16)



古い地名は、日指（ひさし）。  
ここには岫沢集落があった  
ので古い石垣が見られる。



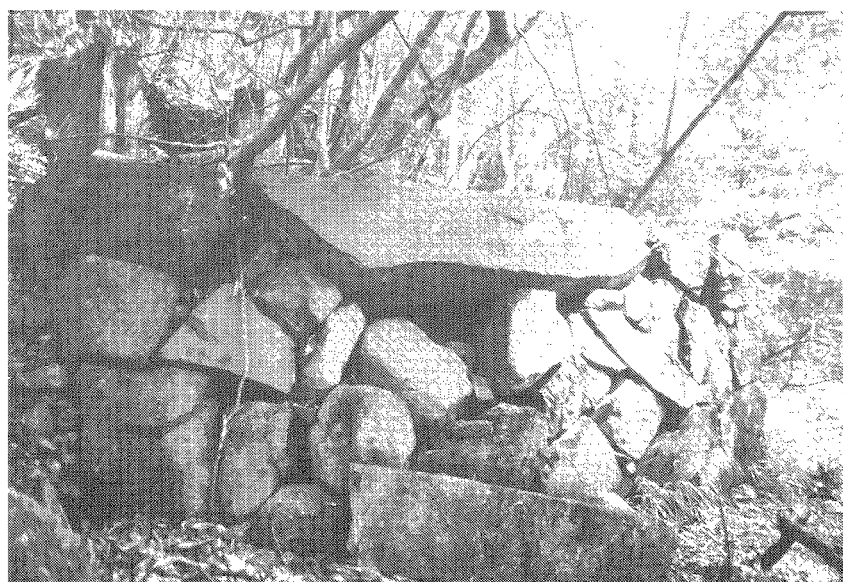
山の斜面を切り崩して広場を造り、そこに家を建てた。家の裏山の崩壊を防ぐため大小さまざまな石を組み込んで石垣を築いた。

## 倉沢の大ヒノキ 奥多摩町・日原 (01. 7. 10)

巨樹画家・平岡忠夫画伯が避雷針をつけて以来、有名になった巨樹。

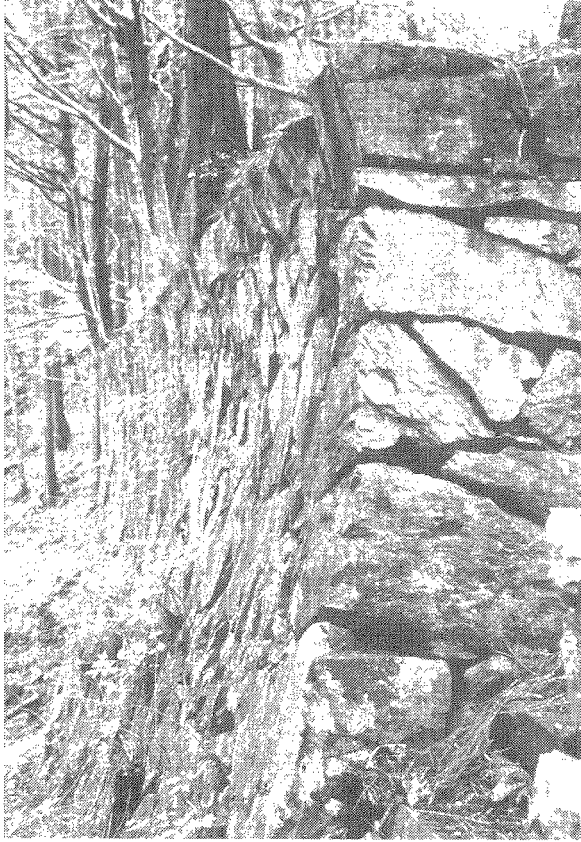


## 八百萬世神 奥多摩町・日原 (01. 7. 22)

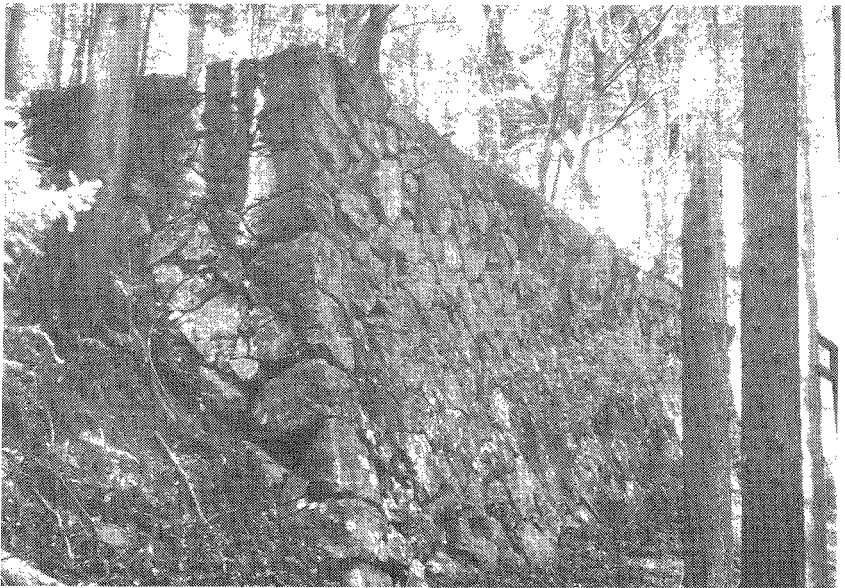


『やおよろずの神』と読む。人々が崇敬した巨樹は枯れたが、前に置いた石だけが残った。

## 倉沢神社跡 奥多摩町・日原 (01.7.20)



奥多摩工業石灰工場の縮小により倉沢集落に人が住まなくなり久しい。倉沢大権現と呼ばれていたいわゆる倉沢神社は、日原一石山神社に合祀された。この石垣は、地元の石を利用した乱層野石積みで大小の石を巧みに組み合わせた素朴なもの。



倉沢から人がいなくなり、神社も近くの一石神社に合祀された。



## 倉沢神社跡 奥多摩町・日原 (01.7.22)

都内の石垣としては、一級の文化財。  
誰がいつごろ積んだのか一切不明。  
古城の石垣を思わせる立派なもの。  
倉沢神社の宝物は、森林館に保存展示  
されている。



## 旧坂和本家の石垣



日原街道から1kmほど急坂を登ったところに倉沢の集落があった。現在は、常住者はなく週末に90歳を越えた坂和さんが登ってくるだけ。

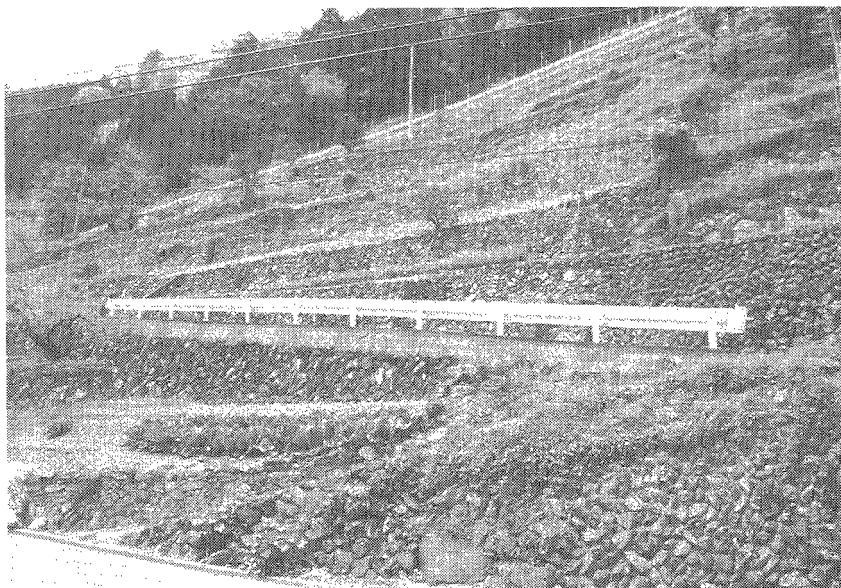
本家の家屋は、廃虚となり足の踏み場もないほど。

この裏山の石垣は、放置されていた関係で樹木が石垣の間から芽生え、生長しつつあるが、不思議なことに山の石垣に限って樹木が生長しても崩れない。



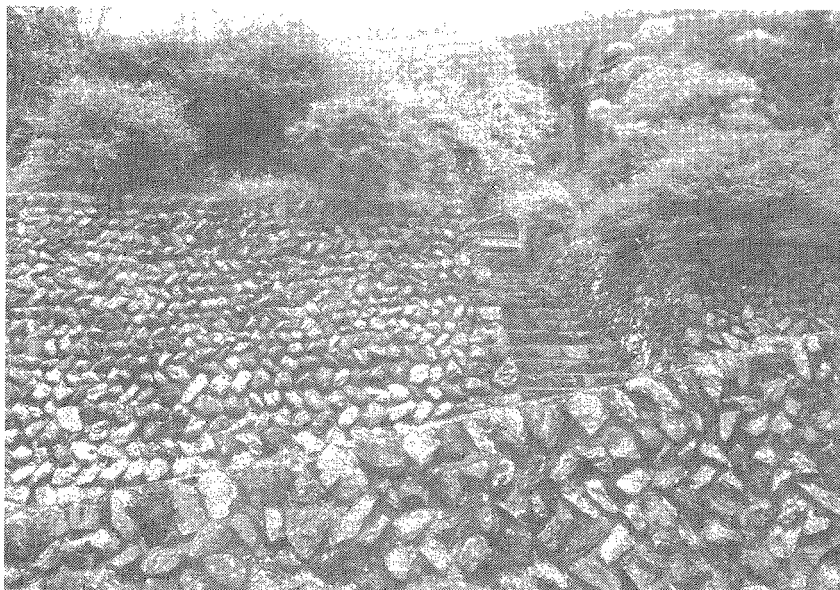
石垣の上に生えた樹木

東日原バス停付近 奥多摩町・日原 (01.5.5)

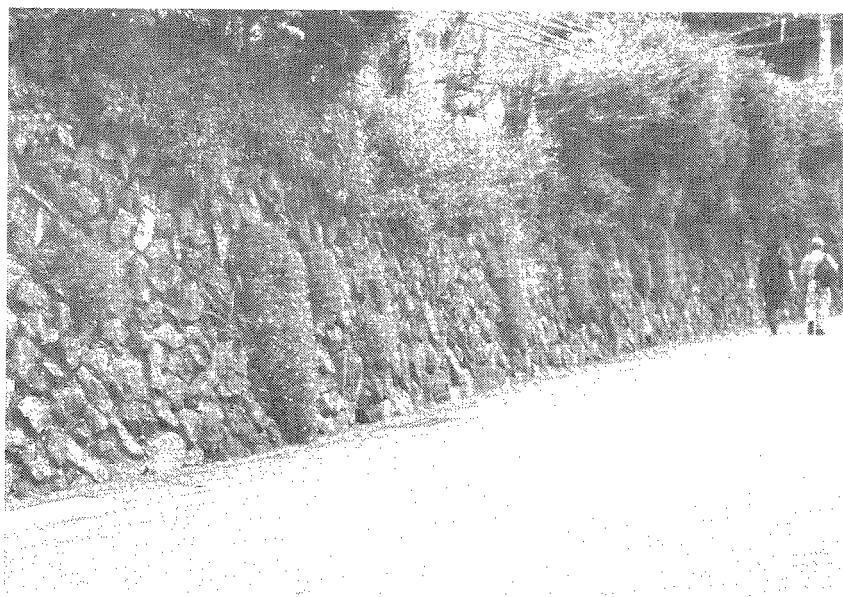


見上げると、見事な石垣風景に圧倒される。  
片隅の石仏が心をいやしてくれる。

日原静和旅館付近 奥多摩町・日原 (01.5.5)

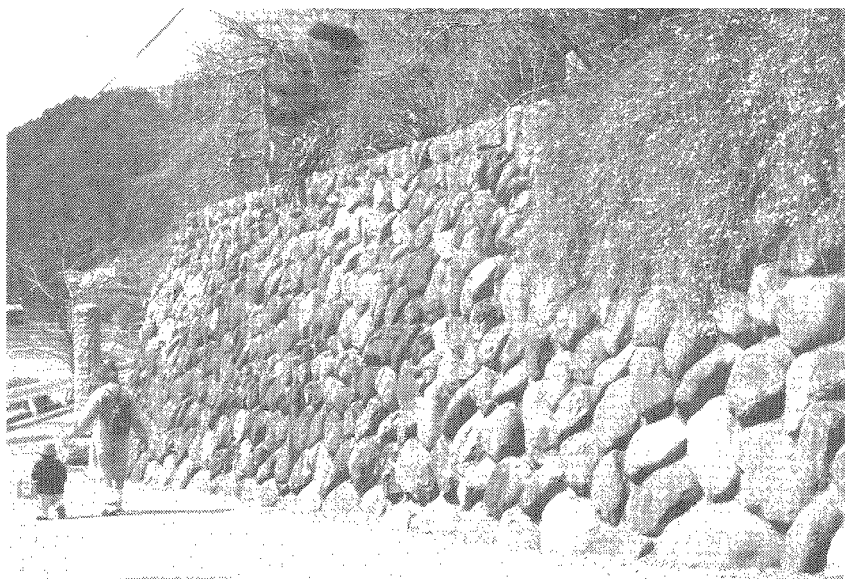


急峻な地形のため、石積みした所が多い。しかも山の石は、ゴツゴツしていてまさに山奥の風景。



## 丹叟院の黄梅 奥多摩町・小丹波 (01.3.8)

門に向かって右側の石垣に垂れるオウバイと保育園帰りの母子の後ろ姿に暖かさを感じた。



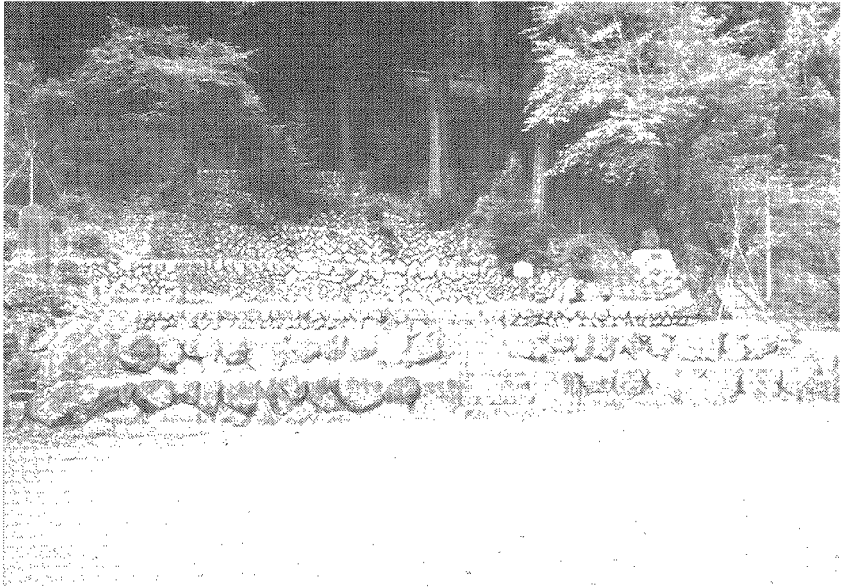
## 丹叟院のしだれ桜 奥多摩町・小丹波 (01.4.12)



最近では、枝垂れ桜にライトアップされる花の寺。  
古里駅の上、徒歩5分の所にある。

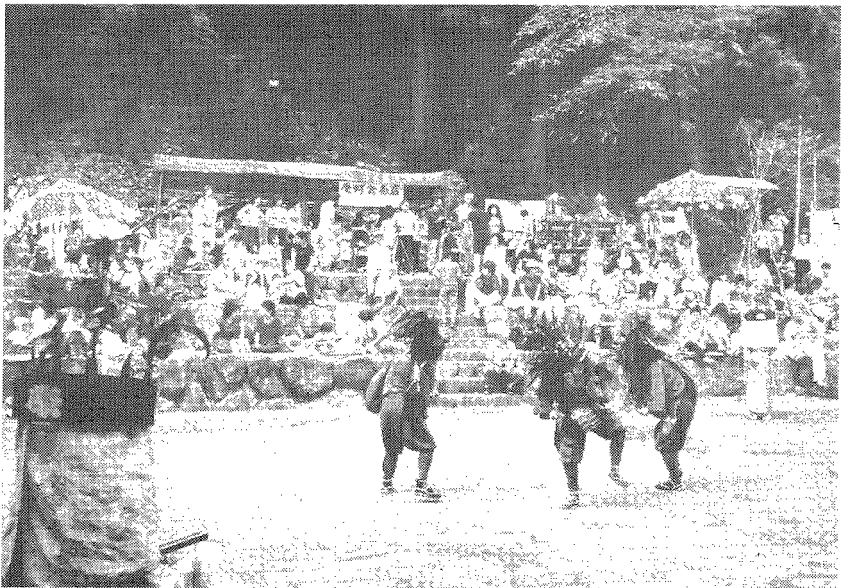


熊野神社の境内 奥多摩町・棚沢 (01.7.20)



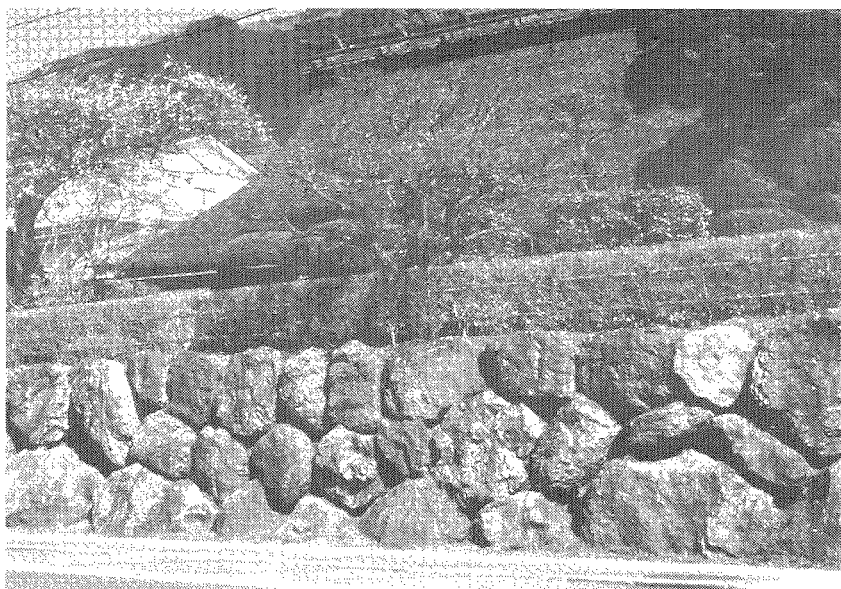
段々になった石垣は観客席として獅子舞や神楽、村芝居などの時に役立って来た。

熊野神社獅子舞 奥多摩町・棚沢 (01.8.19)



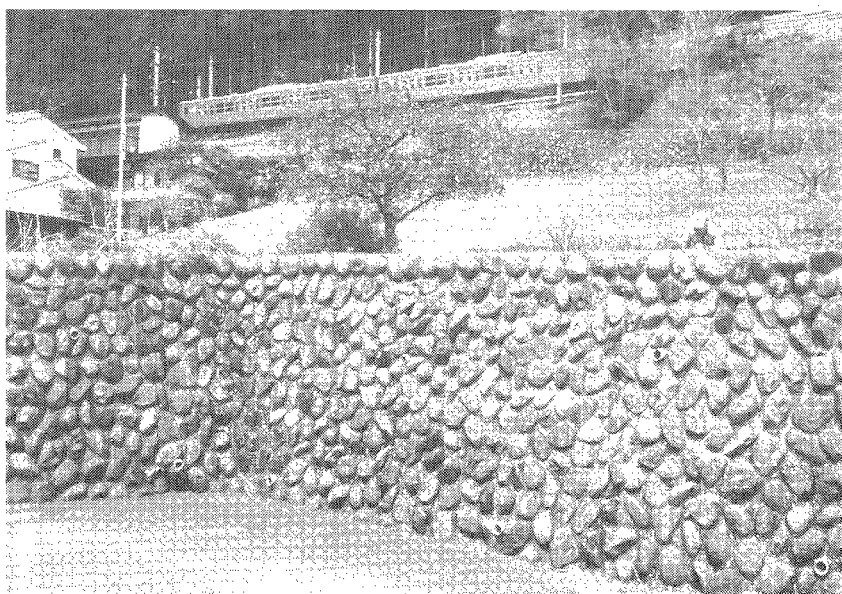
年に一度の獅子舞には、棚沢の出身者が集まって来るという。近郷随一の盛大な獅子舞。

## 小澤酒造の石垣 青梅市・沢井 (01.3)

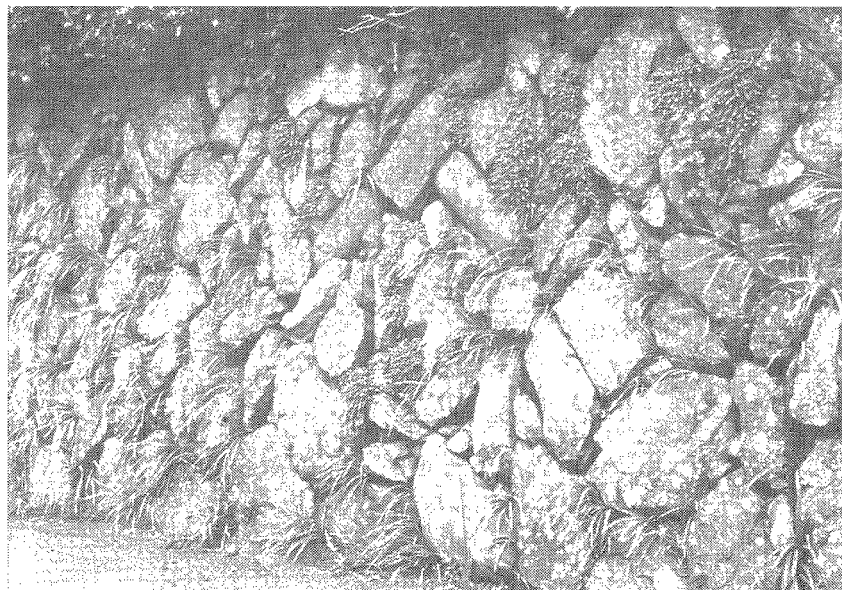


『澤乃井』と言えば、奥多摩の地酒。  
奥多摩街道に面し、紅梅・白梅と石垣風景が人々の目にとまる。

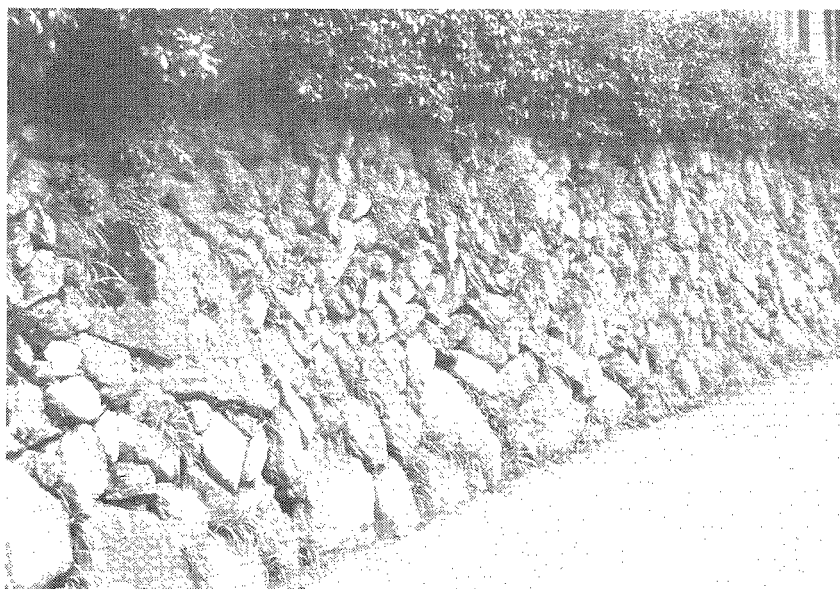
## 斜面の畑と青梅線 青梅市・沢井 (01.4.12)



## 石垣と多肉植物 青梅市・沢井 (01.4.12)



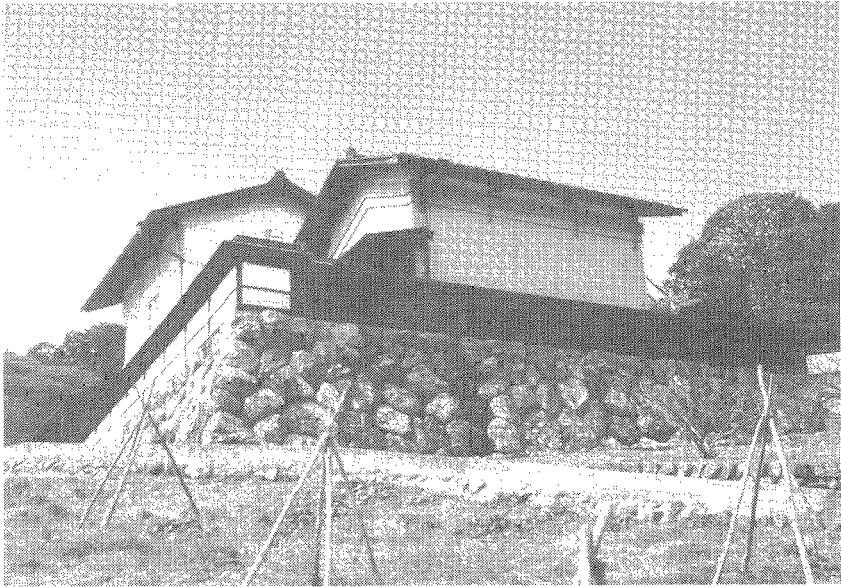
青梅線と奥多摩街道との間を通る旧道は心を和ませてくれる道。



この周辺は傾斜地が多く、道路だけでなく、石垣風景が豊富な所。



## 旧家・山崎家の石垣



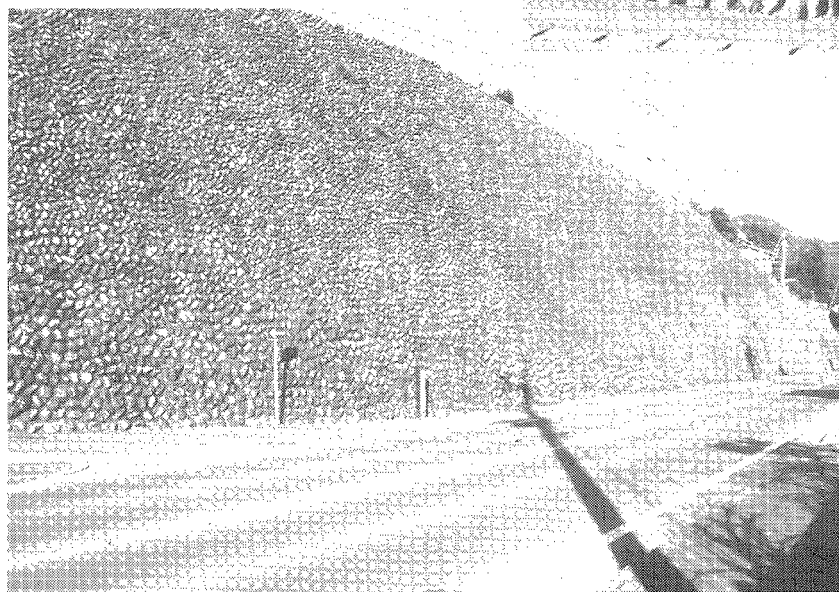
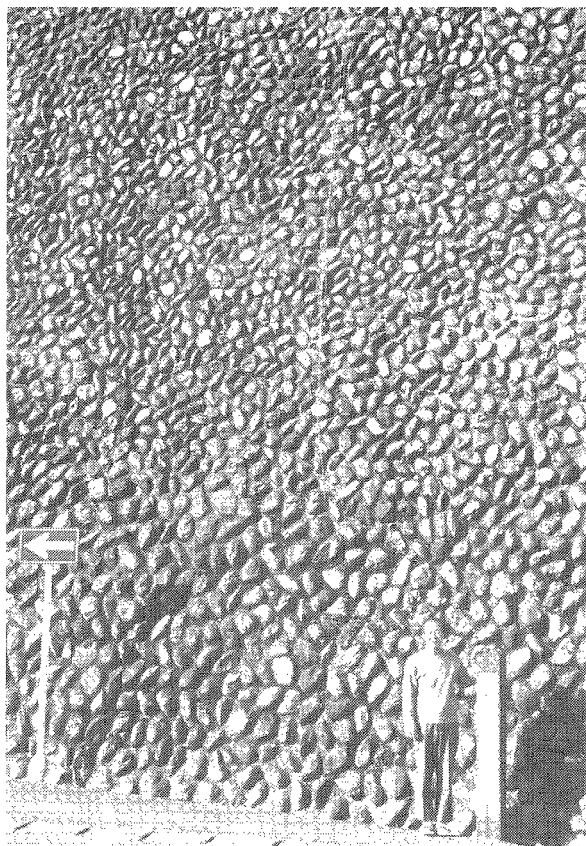
軍畑駅前にある茅葺き民家。  
この石垣は、多摩川の石ではないが、規模が大きく急斜面を利用した代表的なものとして紹介した。



上記の山崎家のほぼ真下にある民家で青梅街道に面している。  
ここは、青梅マラソンのコースで、この付近一帯は戦国時代の辛垣城跡、軍畑、鎧塚、渡船場など、歴史のある所で最も石垣が多い所。春のツツジを入れて撮影してみた。

## 青梅街道青渭通り入り口

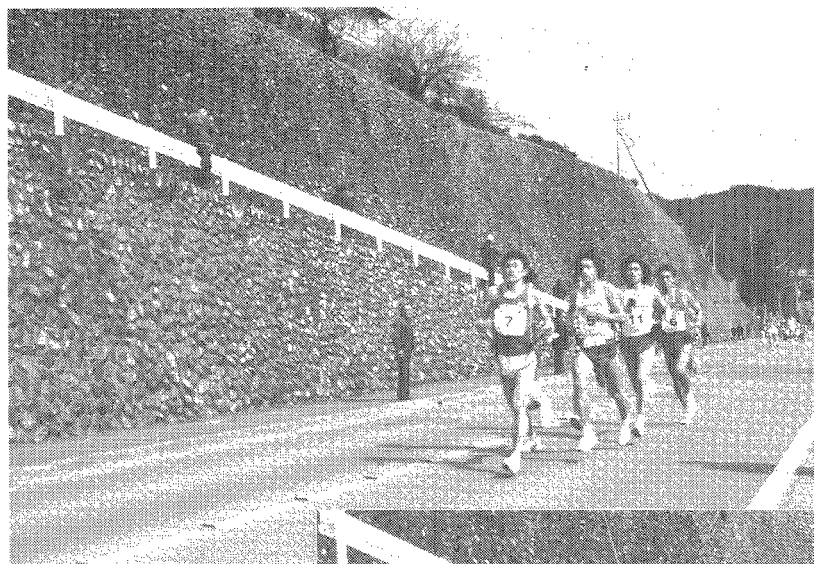
多摩川流域でもっとも石垣が多いのがこの付近。青梅街道はもちろんのこと、青梅線に沿って旧道があるが、コンクリートを詰めていない石垣が多い。このため、石垣の間に希少植物を見ることもある。例えば、日本古来のスミレやイヌフグリなどが発見されることがあるとのこと。



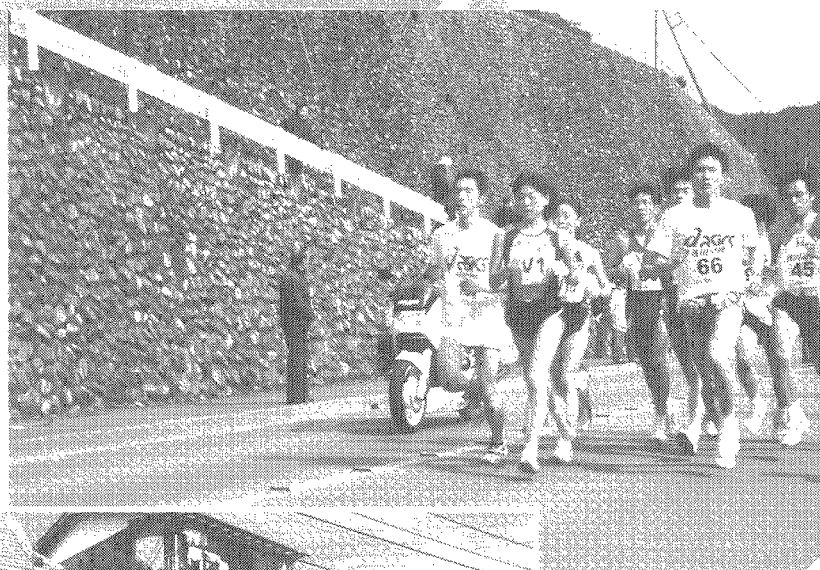
青梅街道随一の高さと面積を有する石垣。玉石を用いた野面積みの石垣としては都内でも最大級のもの。

軍畑駅直下の軍畑大橋から上流の御岳方面にかけても玉石の石垣が続く。道路拡幅や石垣崩壊などが原因で青梅街道から石垣がなくなる恐れがないとは言えない。実際に軍畑から北へ伸び、埼玉県へ通じる都道などはコンクリート化されつつあるのは情けない。

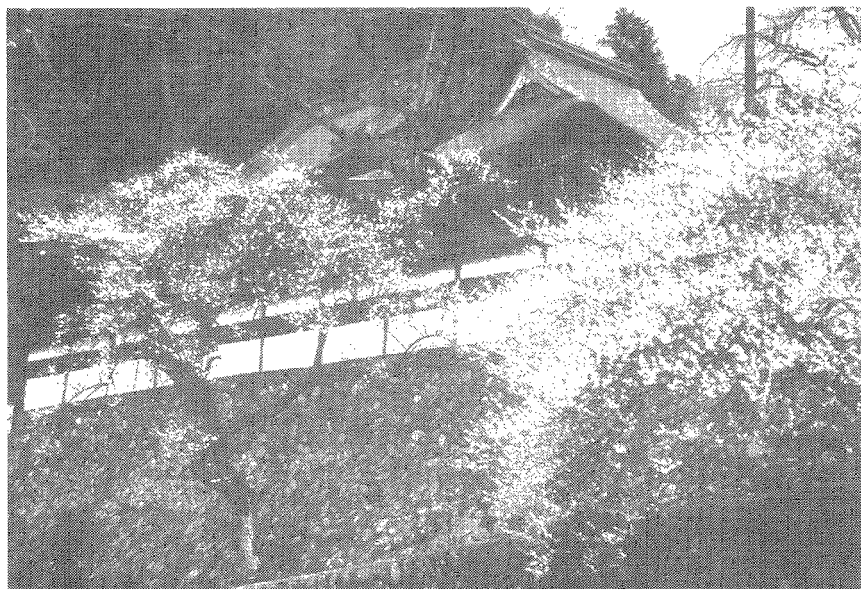
# 青梅マラソンコース 青梅市・沢井 (01.2.18)



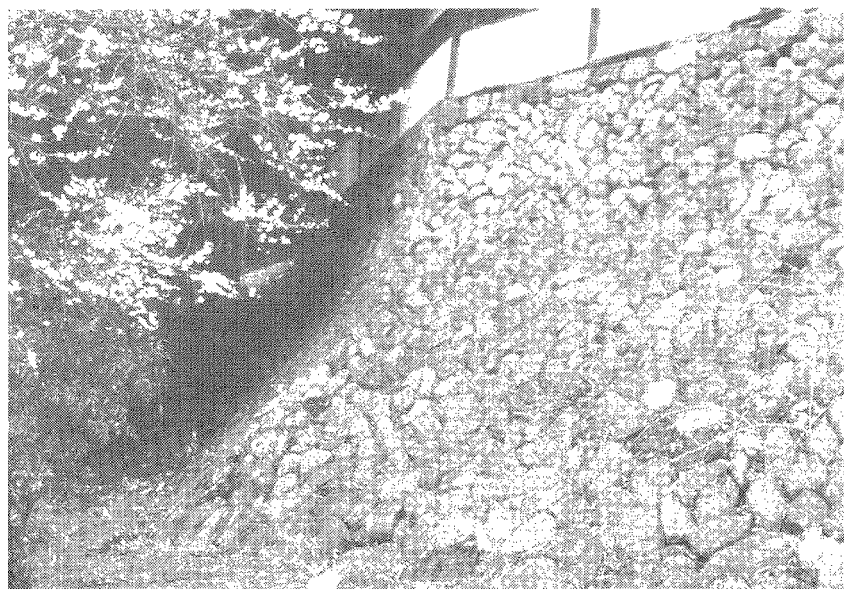
軍畑駅下の奥多摩街道には  
街道随一の石垣がある。あ  
の高橋尚子さんも走った。



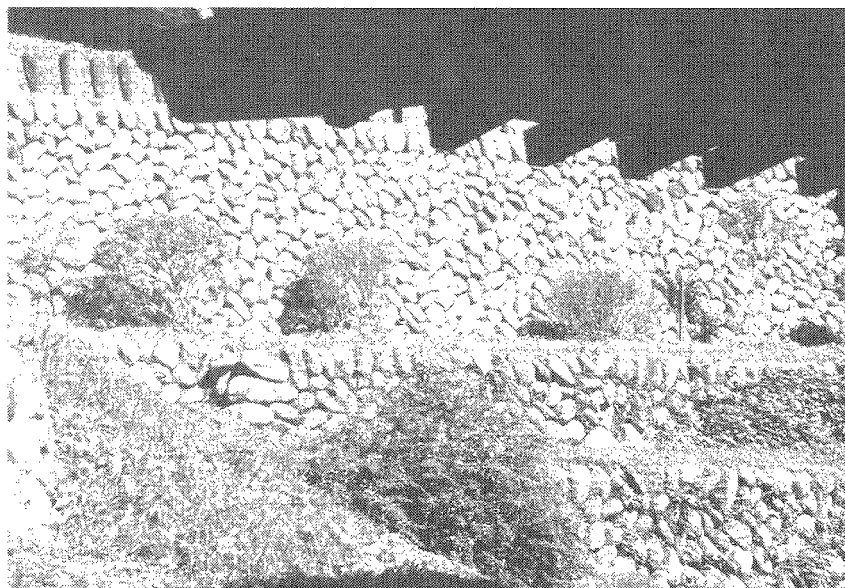
## 海禅寺の石垣 青梅市・二俣尾



東京都史跡の海禅寺には戦国時代の歴史が埋もれている。  
多摩地方を支配した三田一族の墓がある。



文化財として残したい石垣のひとつ。  
コンクリートを使用していないので石垣の間にスミレやタンポポが  
咲く。近くに辛垣城跡がある。

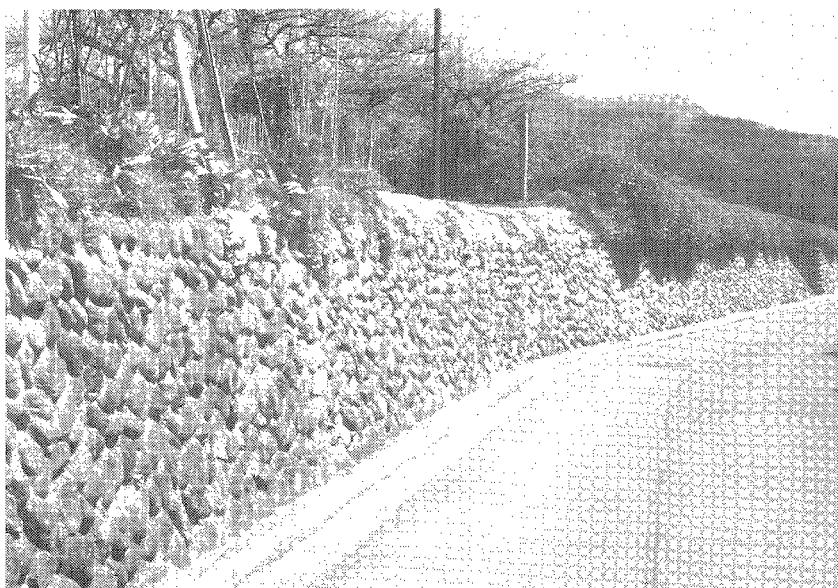
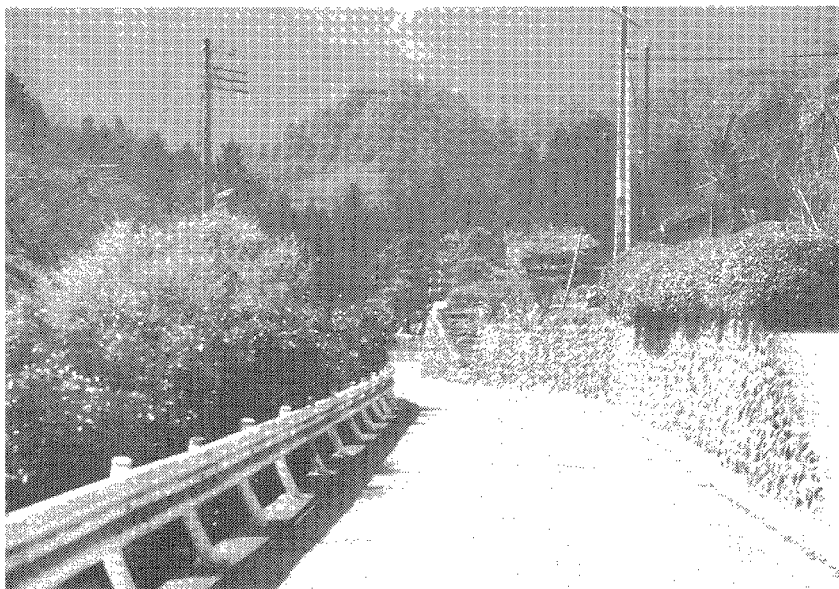


#### 本堂裏手の石垣

本堂の裏手も新旧の石垣が支えている。  
さらに登ると辛垣城跡があるが、石灰岩採掘の  
ために荒らされて城の面影はない。

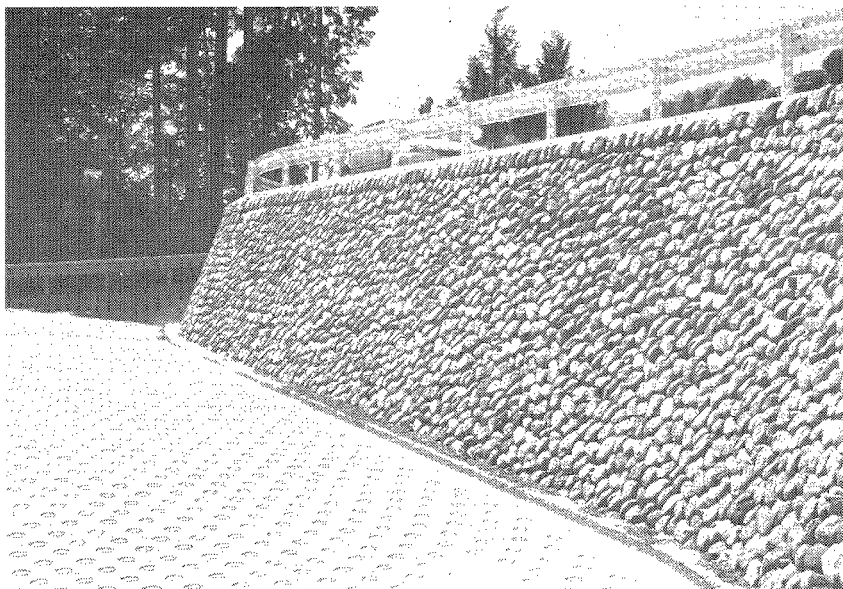


梅郷、花の道 青梅市・梅郷 (01.4.22)



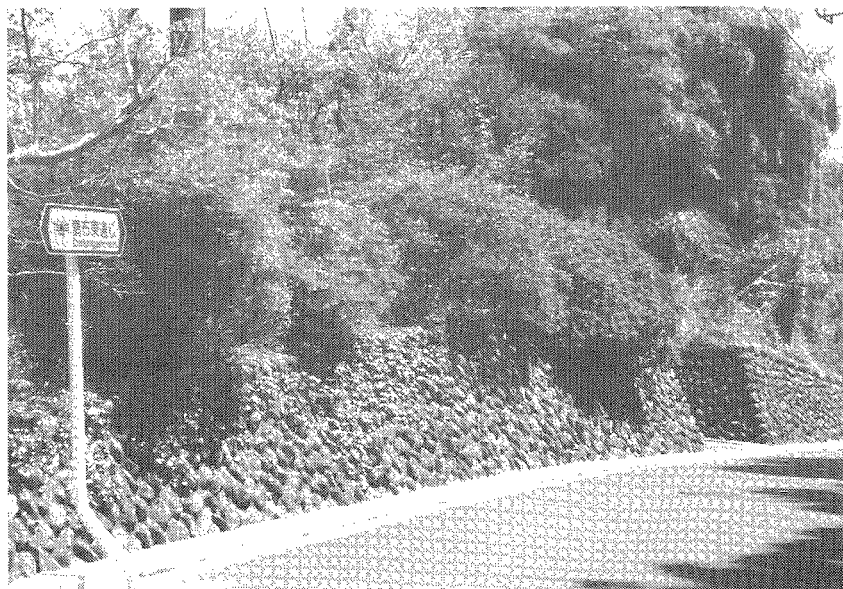
緑豊かな梅郷には石垣がよく似合う。  
芝桜や水仙のほか、野の花がいい。

## 吉野梅郷の道 青梅市・梅郷 (01.4.22)



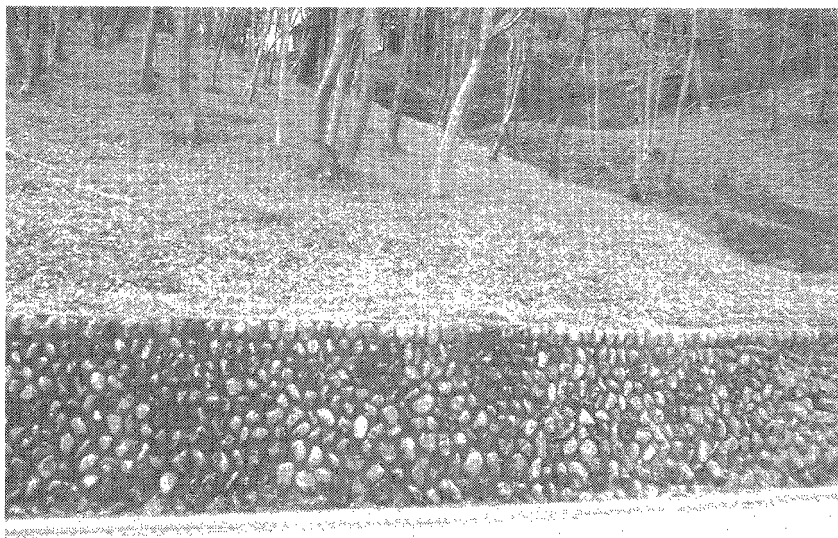
梅郷での見所は梅だけではない。平成に積まれた石垣に市政の道に対する姿勢が伺える。

## 調布東通り 青梅市・長淵 (01.4.22)



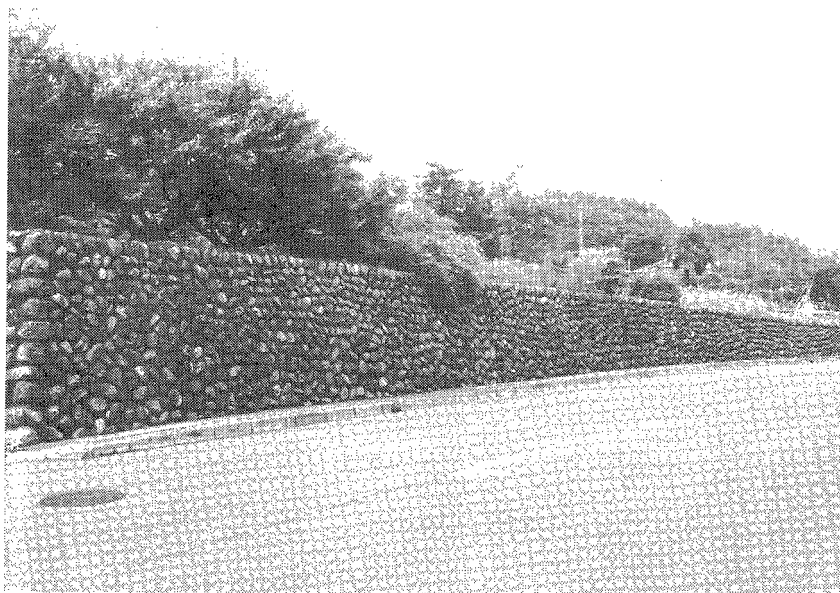
長淵付近も石垣が多く、つつじの赤や木々の緑が美しく映える。

## 石垣とカタクリ 青梅市・長淵 (01.4.8)



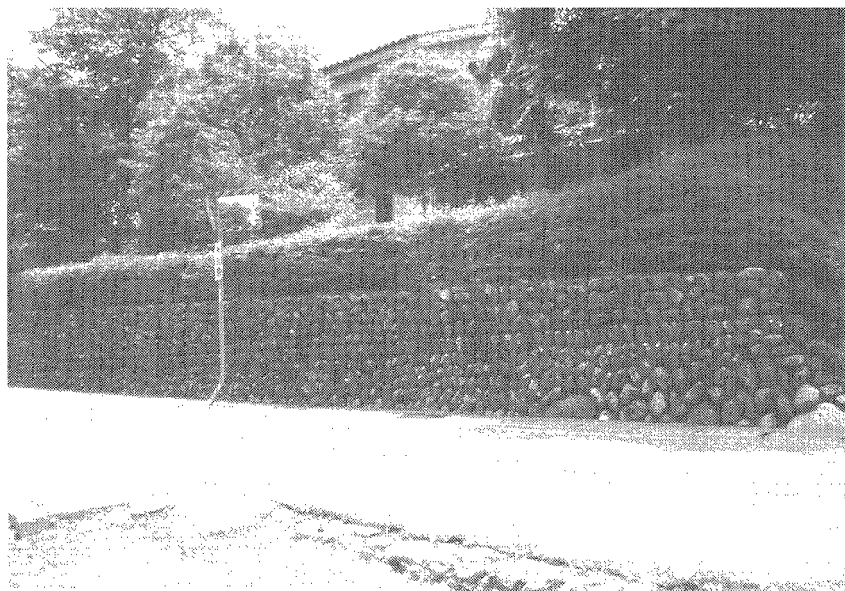
天祖神社の北側斜面にカタクリが群生している。  
石垣がガードしているので荒らされていない。

## 和田橋北詰の生産緑地 青梅市日向和田3丁目

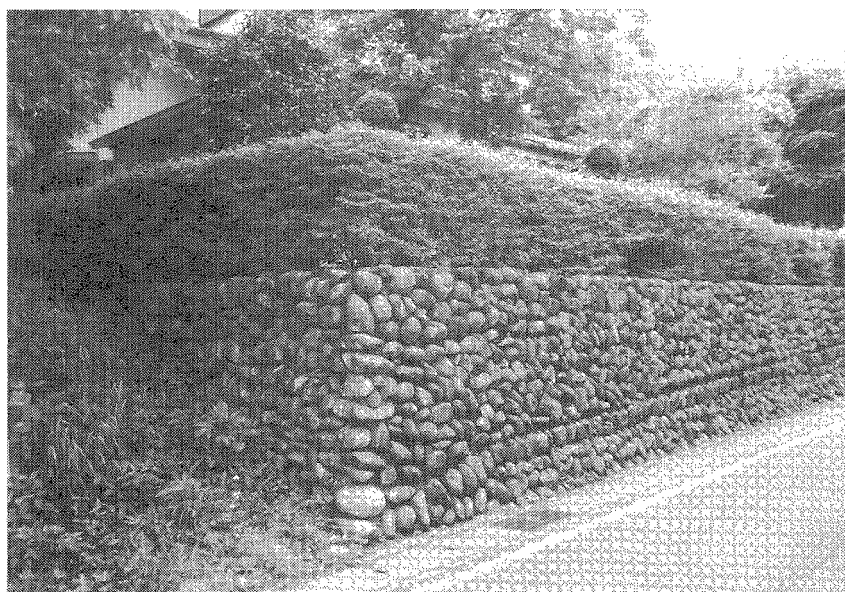




## 民家の石垣 青梅市・駒木町 (01.5.25)



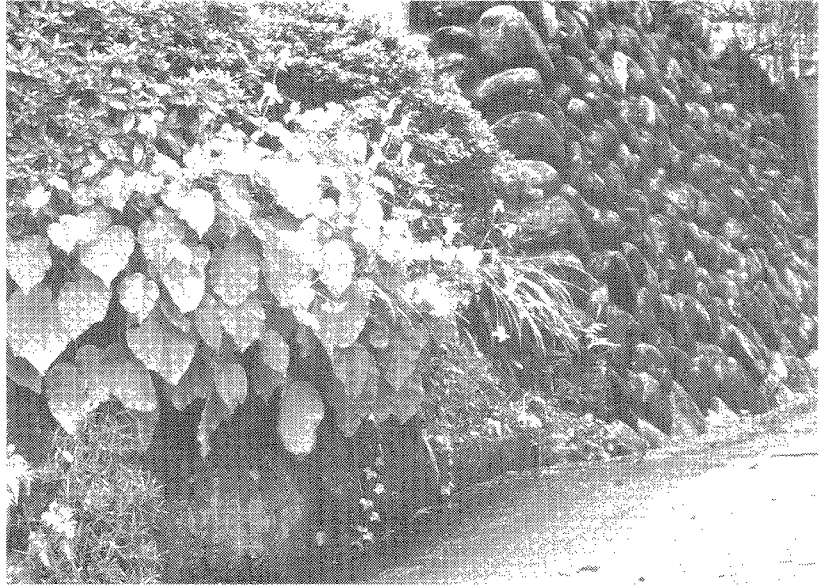
坂本忠義家の石垣。上と下では、積み方が違う。  
真ん中に一線があり面白い。



家の土台を高くするために土盛りをしたので、古くからあった  
石垣の上にさらに石垣を築いたので新旧の間に区画線ができて  
しまったもの。

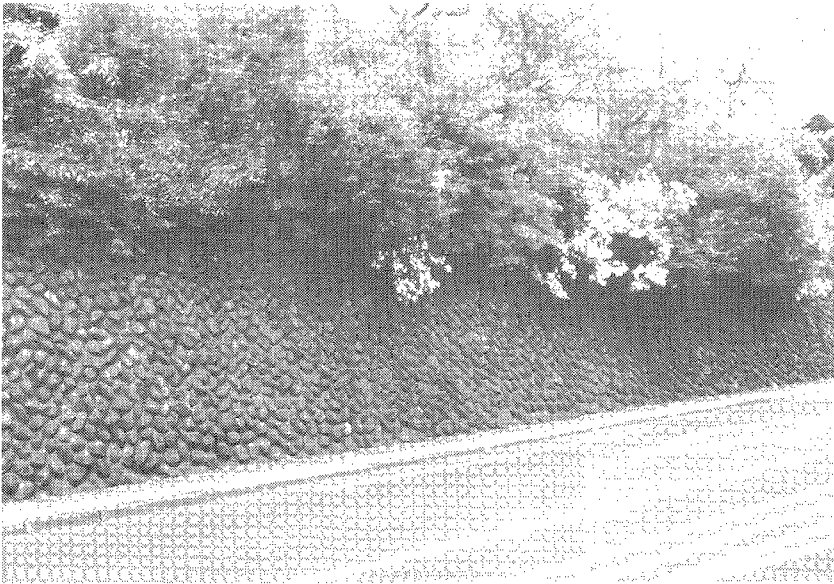
## 秋海棠咲く道に 青梅市・畑中 (00.9.24)

その昔、『はたけなか』と呼んだ所。今は、なぜか『はたなか』と呼ぶ。  
多摩川右岸にも石垣は多い。雨あがりにシュウカイドウを添えてみた。  
早春、石垣の上に白い椿がかわいい。近くには、花の寺・地藏院があり、紅梅、白梅、白木蓮などが楽しめる。



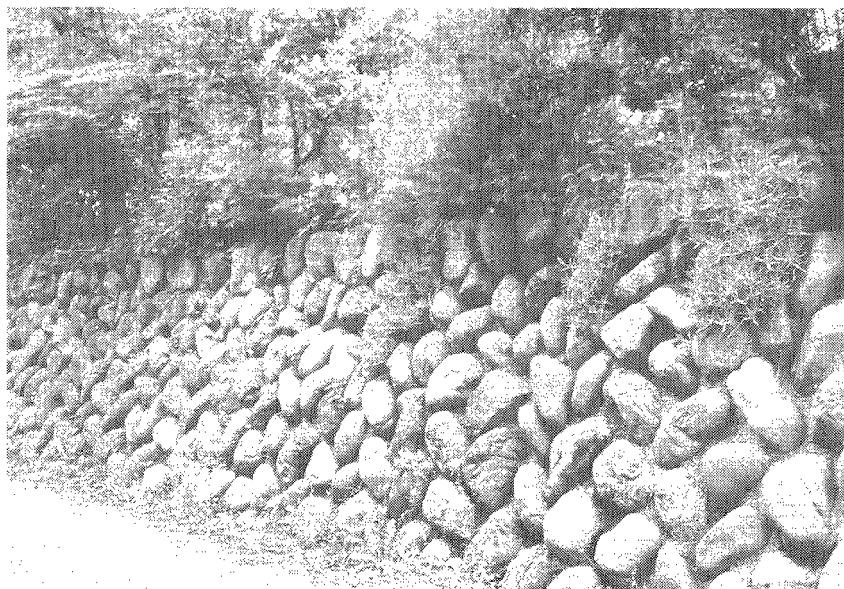
---

## 日向和田1丁目の青梅街道 (01.5.5)

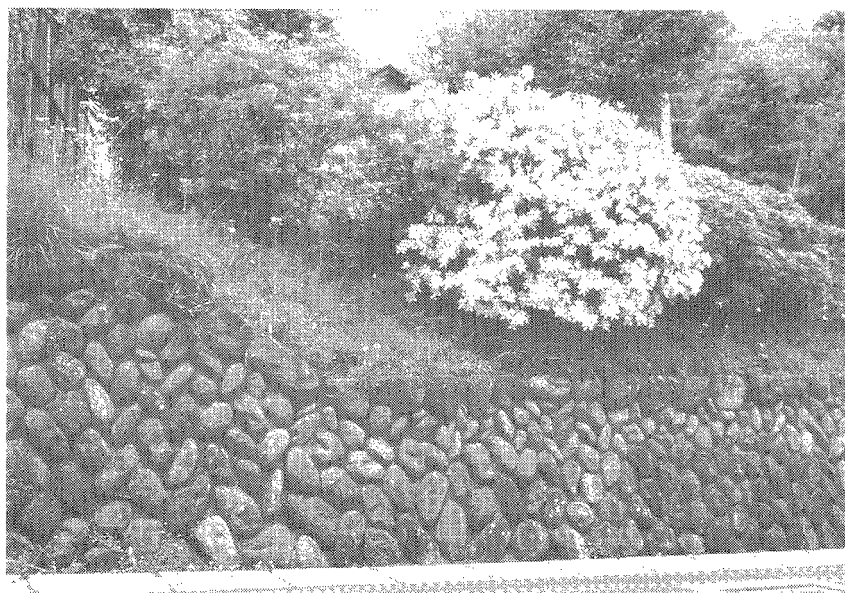


右頁の2葉の写真にある石垣と比較するとここ青梅街道の石垣の石は粒ぞろい。これは、都道のため予算の関係で資材を十分に調達できたためだろう。  
ツツジやヤマブキの花、新緑などが石垣のある風景の良さを強調している。

## 天ヶ瀬通り 青梅市・日向和田 (01.5.5)

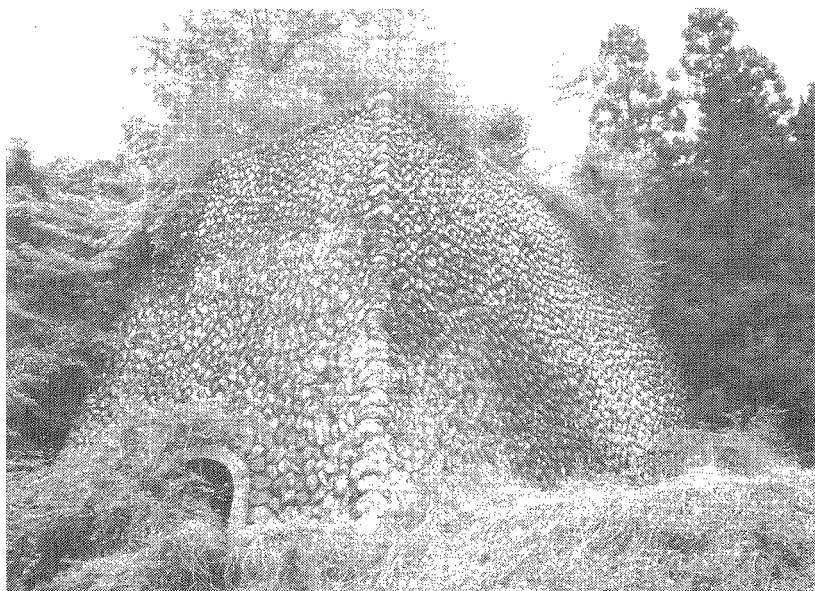


一般の石垣としては比較的大きな石が用いられている。透き間には、植物が生えているので、当初はコンクリートやモルタル等の詰め物がしてなかったものと思われる。写真の手前にモルタルの詰め物が見えるが、これは補強のために後年に施工したものの。



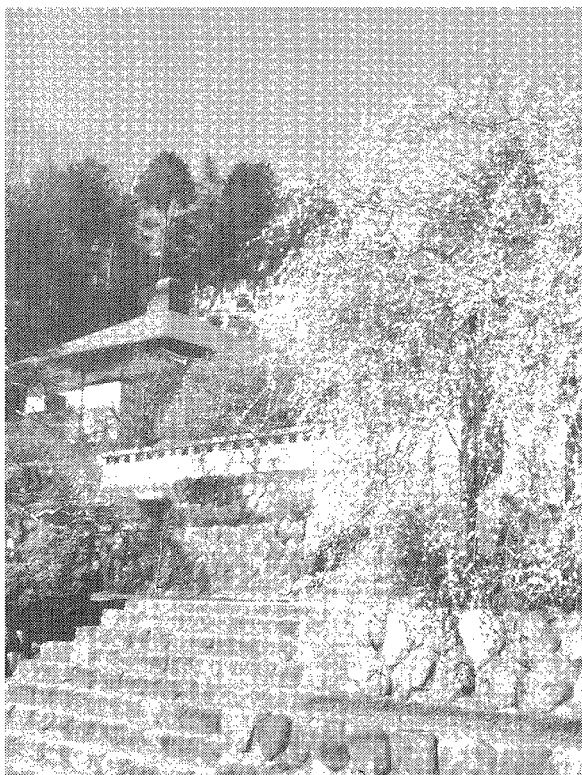
宮の平方面から天ヶ瀬通りへの西の入口。  
旧道には、のどかな風景がここかしこに見られる。

宮の平石灰工場跡 青梅市・宮の平 (01.5.5)



宮の平駅の北側にあり、  
石灰が運び出された所。  
今は、その名残の石垣が  
残るのみ。

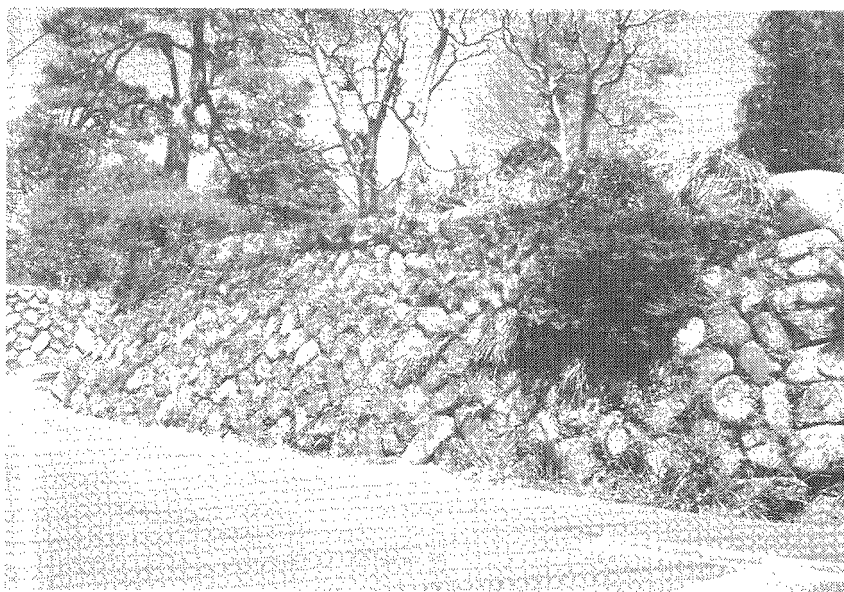
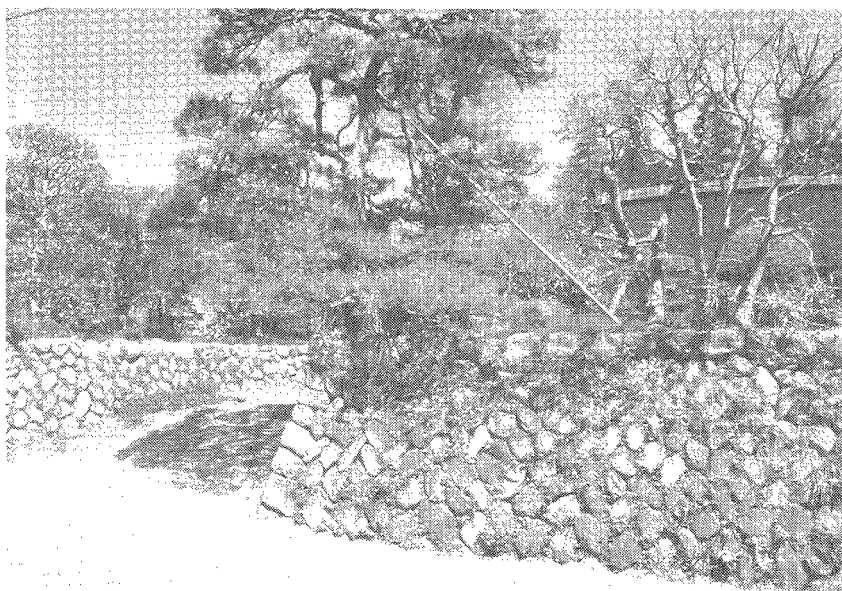
明白院のしだれ梅 青梅市・日向和田 (01.2.26)



青梅マラソンの時期から花  
が咲く。多摩川に南面し、  
斜面を利用して石が積まれ  
ている。

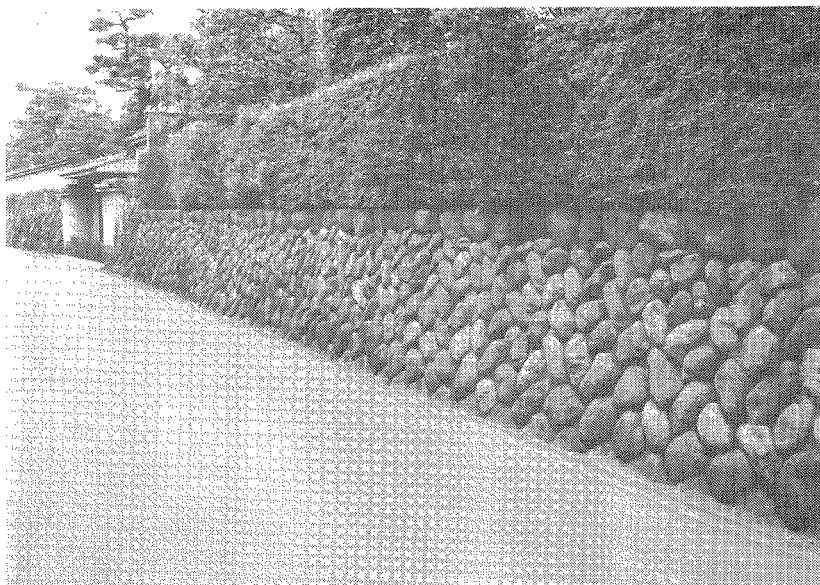


## 古民家と石垣 青梅市・大柳 (01.5.5)



大柳公園と男井戸女の近くに歴史を感じさせる石垣があり感激。  
石の間は自然がいっぱい。  
奥には荒井家の茅葺き民家が見える。

## 青梅市街の旧道 青梅市・青梅 (01.5.5)



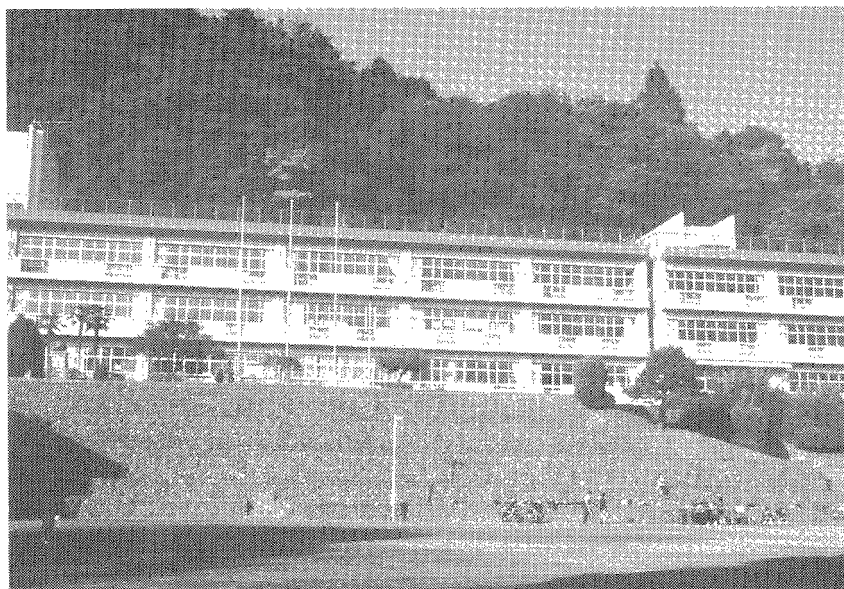
滝上家の石垣と生け垣。  
青梅市の段下にある集落  
には旧家が残り石垣や生  
け垣が美しい。

## 青梅市野上町の市道



道路境界に石積みの塀としての役割を果たしているが、  
玉刈りにしたツツジと石のコントラストがいい。

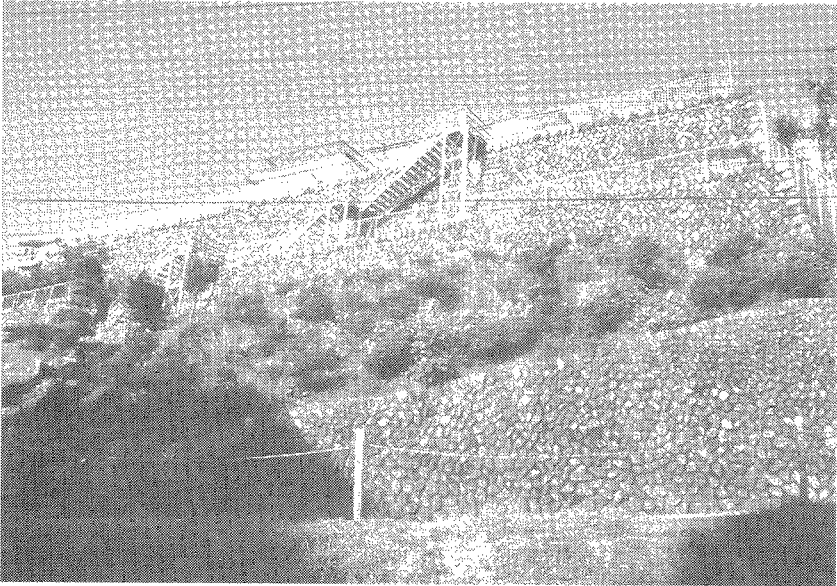
## 青梅市立第一小学校 青梅市・青梅



学校の築地（ついじ）は、卒業生の思い出につながる。  
石積みの上に校舎がある。

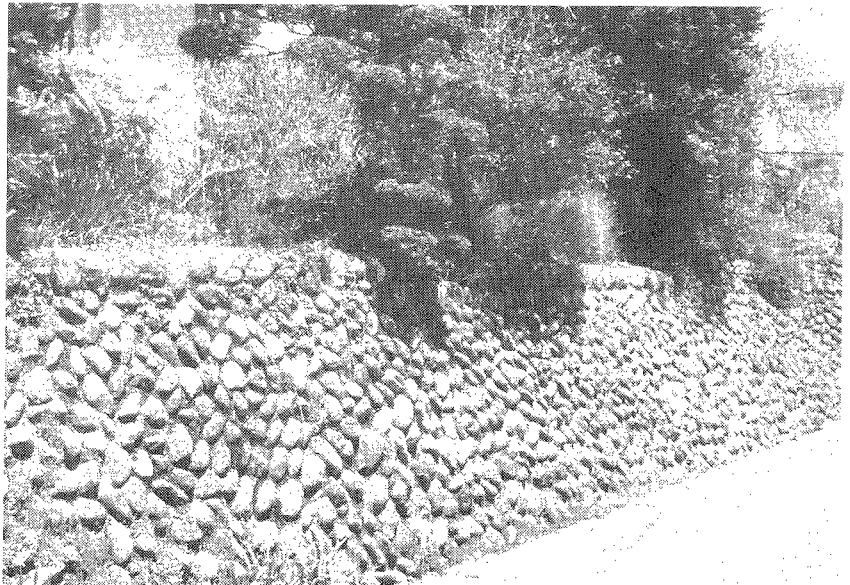


## 河辺の段丘崖 青梅市・河辺 (01.11.9)



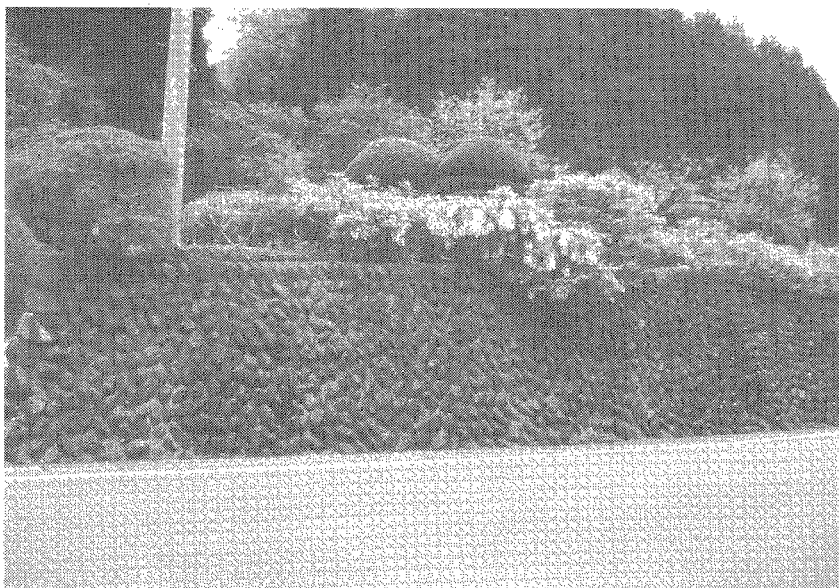
この段丘崖の下に河辺本村があった。  
誰が積んだか見事なスケールの大きい石垣。

## 雪柳とボケの花を添えた青梅市海郷の春

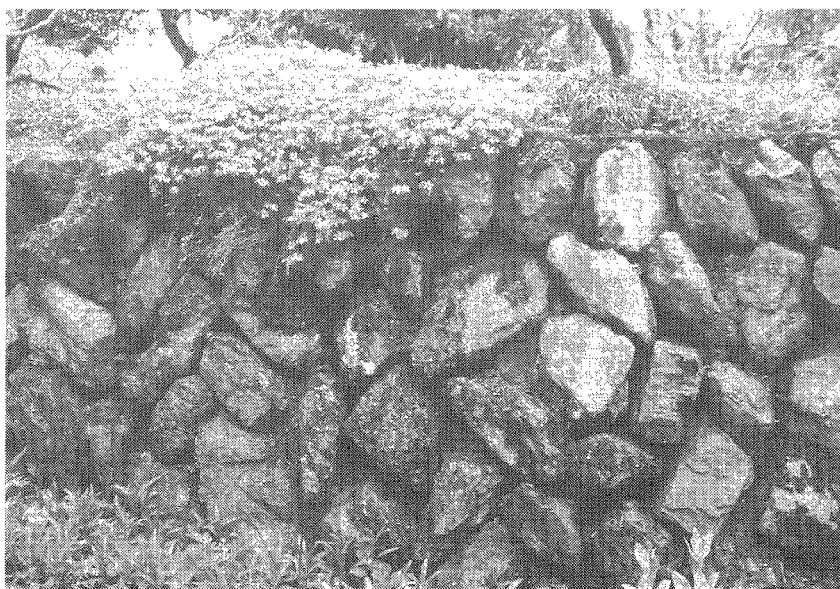




赤いツツジと白い藤の花と新緑がいい(青梅市小曾木にて)

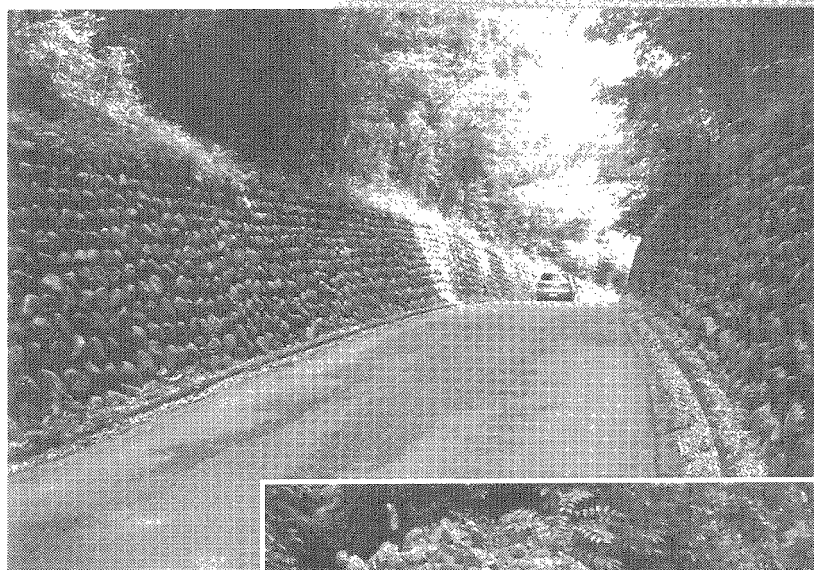
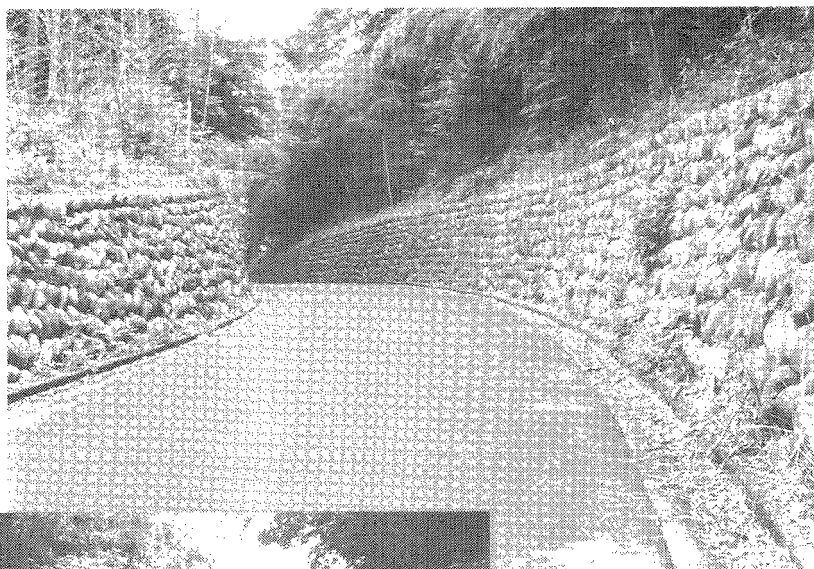


春、石垣が最も見栄えがする季節。  
補強のためのコンクリートの多寡によって、石垣の間に草が生える。  
山や緑と石垣のある風景が人の心を和ませてくれる。

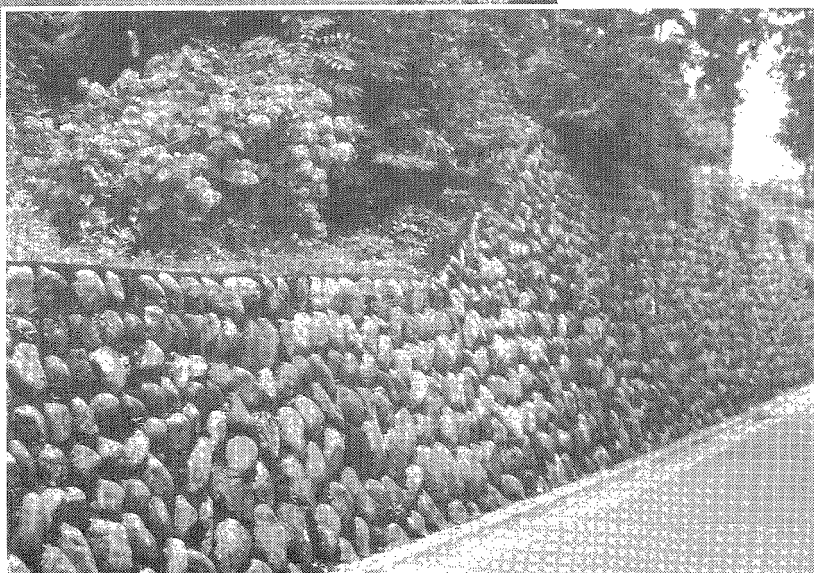


上流のゴツゴツした石を利用し、山の中の雰囲気醸し出している。  
シバザクラの花に親しみと春の長閑さを感じる。

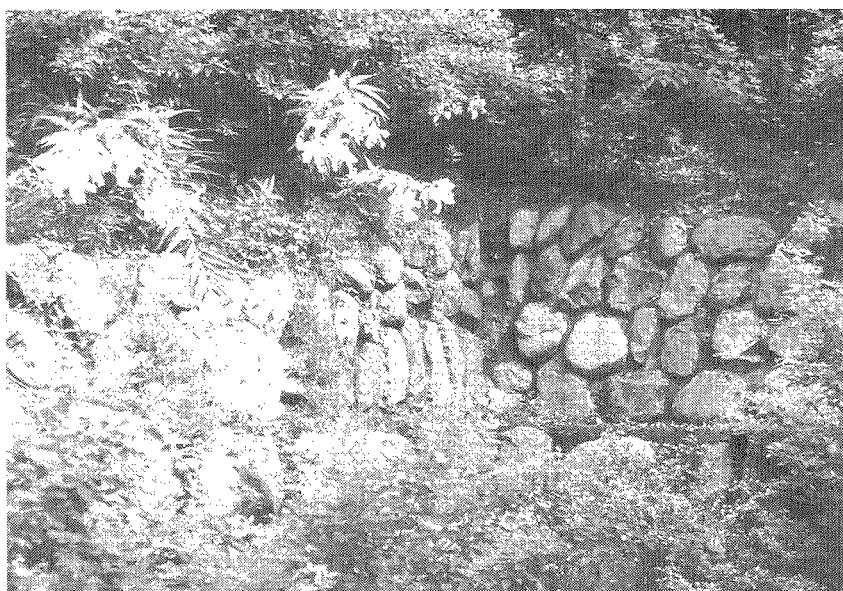
## 吹上の切通し 青梅市・吹上 (01.5.27)



この付近の呼び名を『天竺』  
という。東青梅方面から塩  
船観音寺への道で石垣を左  
右に見て峠越えが楽しめる。



## 塩船観音寺のヤマユリと石垣

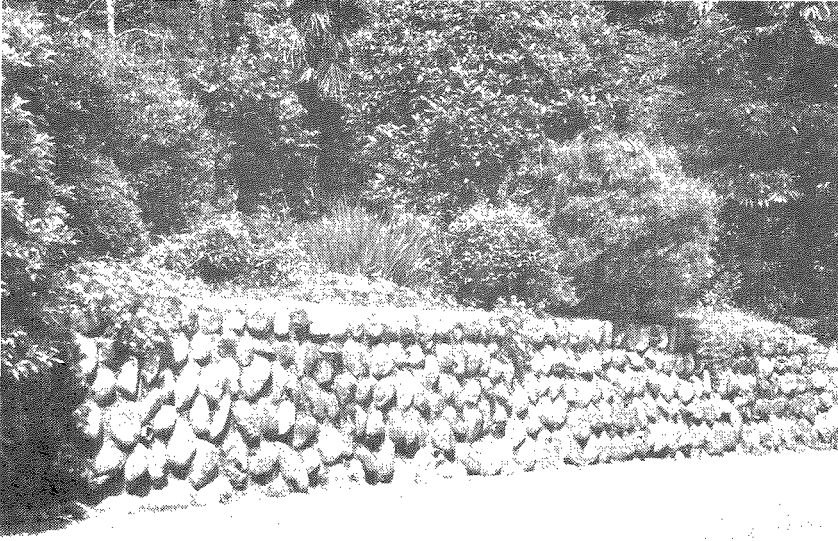


土留として大きな石を  
使いつつ、寺院の雰  
囲気を損なわないよう  
に配慮してうまく石垣を  
活用している。

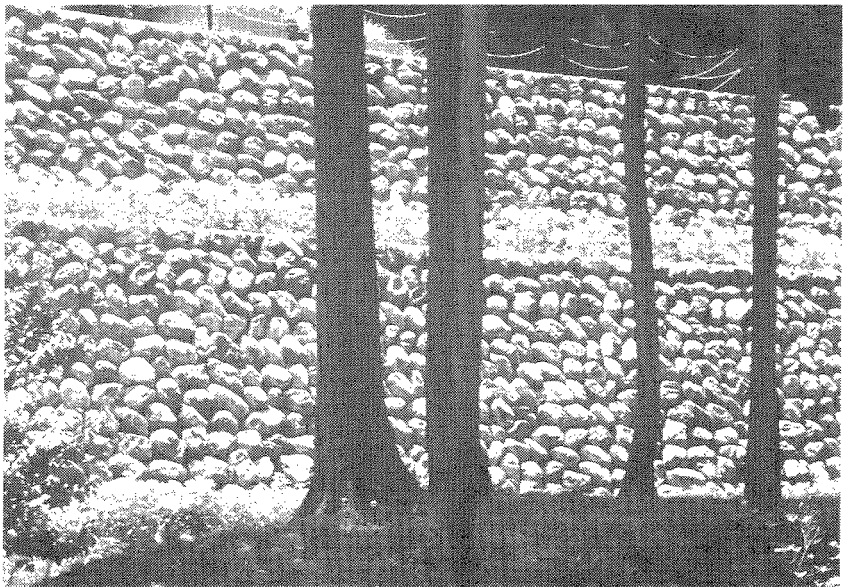
大きな石を組み合わせ、  
自然に近い状態の石垣。  
石と石の透き間に自然  
が生きている。



## 花と石垣と新緑と



吹上菖蒲園付近の市道に石と花と緑の調和を見た。



天寧寺墓地を支える平成の石垣。手前に檜木の幹を入れて撮影したもの。山の斜面を利用した墓地に石垣擁壁を採用したことを評価したい。コンクリートではあまりにも味気ない。

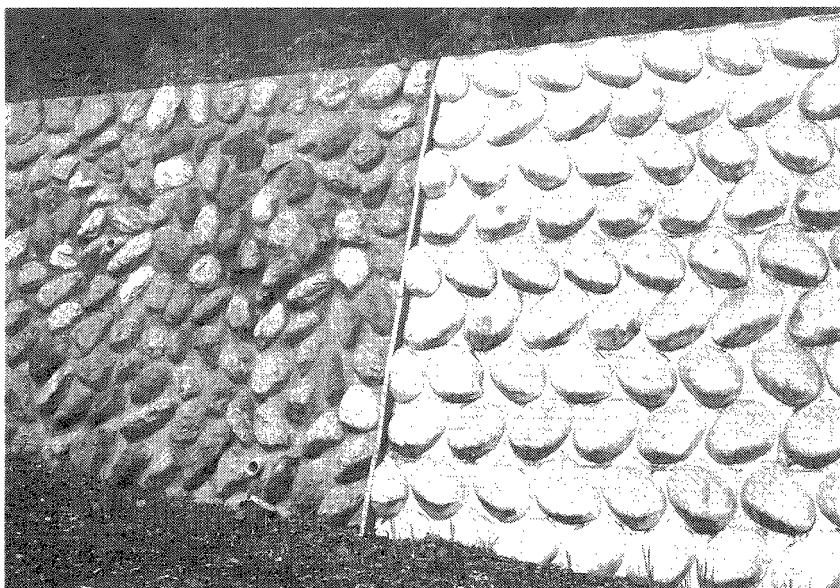


## 秋川街道に春の気配



殺風景な山の中のトラック道にミツバツツジの紫色が鮮やか。

## 本物の石垣と石垣もどき



羽村市羽西の小作坂下交差点北側ガソリンスタンドの擁壁に見たコンクリート製の偽石垣。美的間念ゼロの代表的なもの。機能性とか安全性や経済性以前の問題。

## 安楽寺の春 青梅市・成木



埼玉県境の山の中の春は遅い。  
平安時代創建の大寺院・安楽寺  
付近では梅も桜も桃もいっせいに花開く



供養塔の台石を石積みにしたもの  
手前に紫露草を添えてみた。

石積みの上に立つ天寧寺の鐘楼

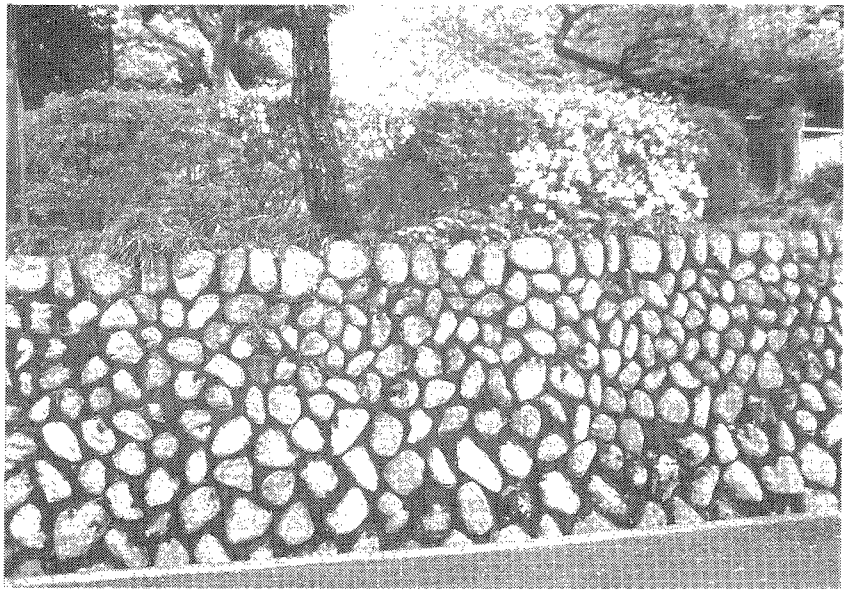




## 老松と石垣 羽村市・羽加美

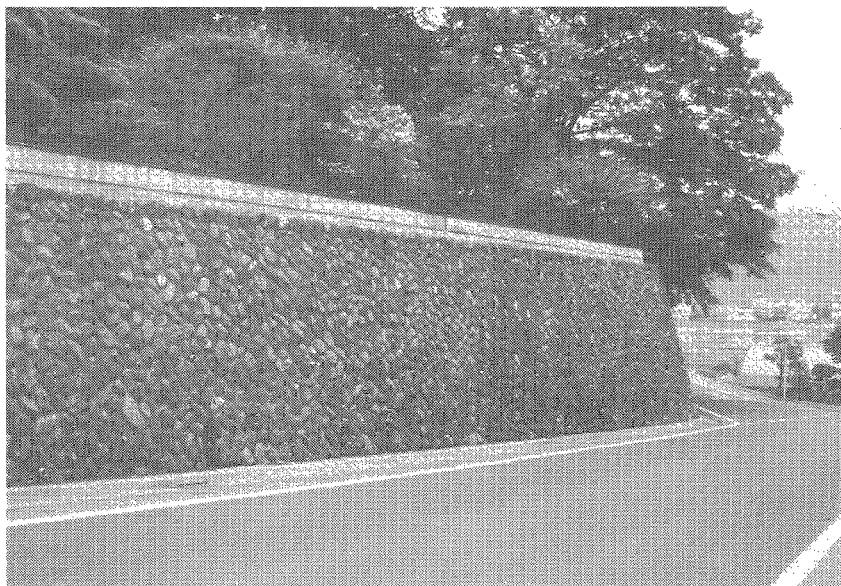


古刹一峰院の入り口には古い石積みが残り、松の緑との組み合わせが美しく、すがすがしい。



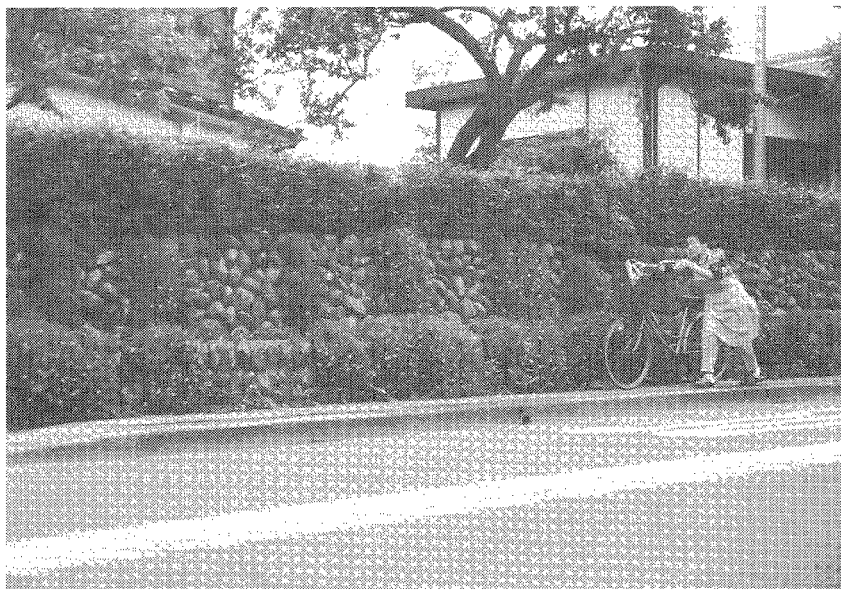
寺院の石垣としては比較的新しいものだが、小さめの石をランダムに並べ、苔むしたところがいい。  
植栽してある紅白のツツジも風格がありすばらしい景観を演出している。

## 間 坂 羽村市・羽中 (01.5.27)



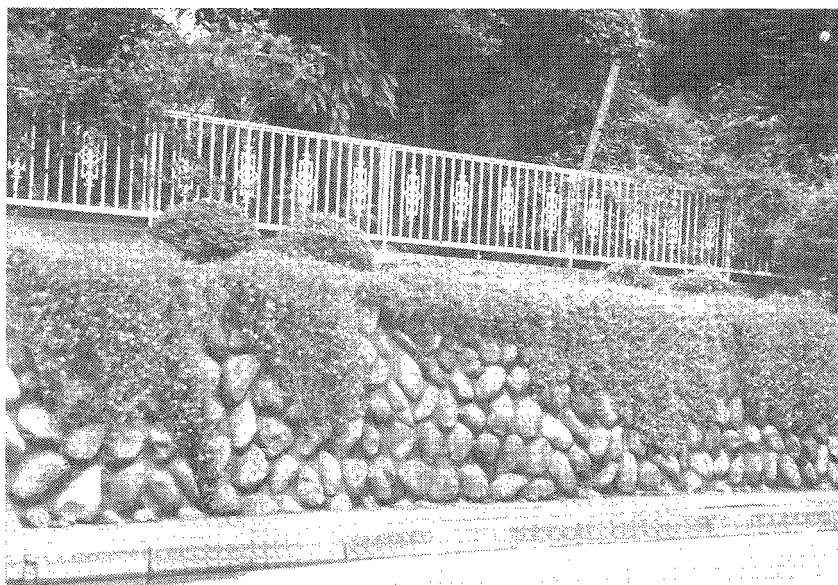
『まざか』と読む。  
一本杉や一峰院、阿蘇神社などがあり、  
羽村発祥の地とも言える歴史がある。

## 石垣と生け垣



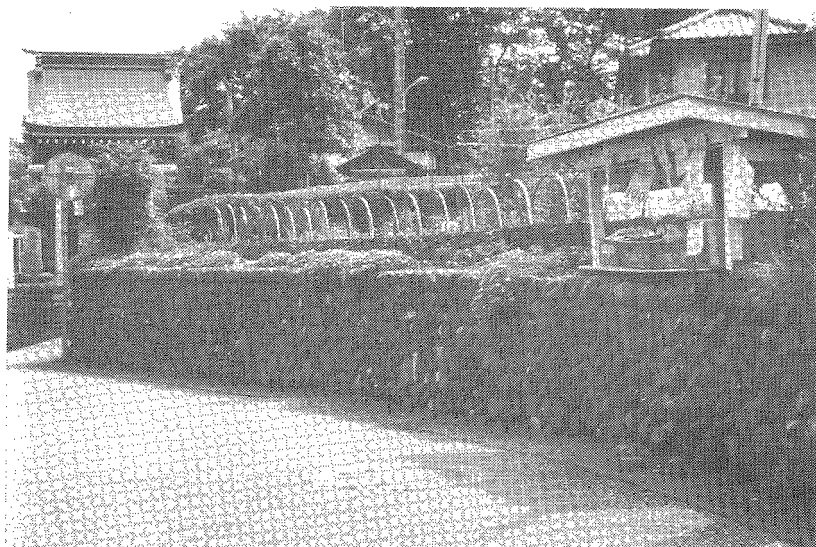
奥多摩街道に北面した石垣に生け垣がマッチしている。  
住む人の心が伝わってくる。

## 石垣に花を添えて 羽村市・羽中 (01.5.27)



道路に面した石垣は、自動車騒音を緩和してくれる。  
さらに植物や花があると効果抜群。花の名前は松葉菊。

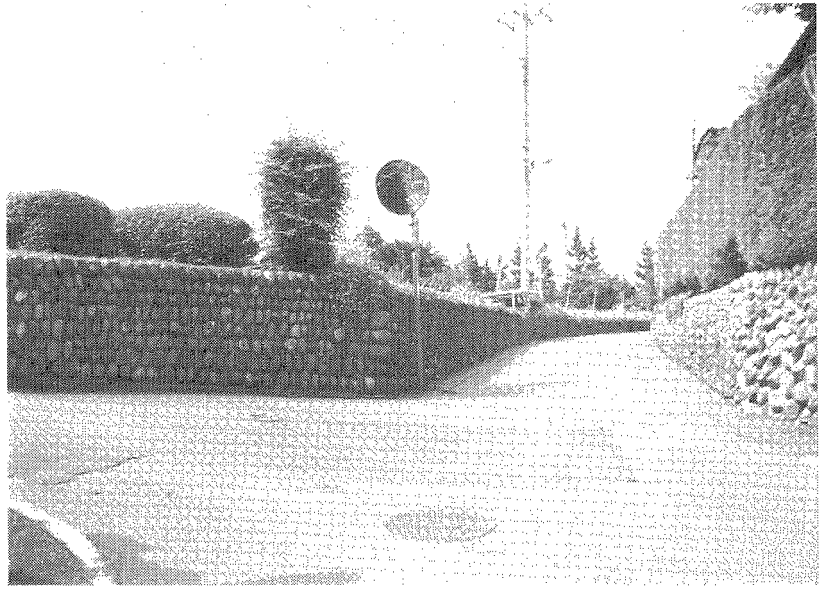
## 野菜類無人販売所



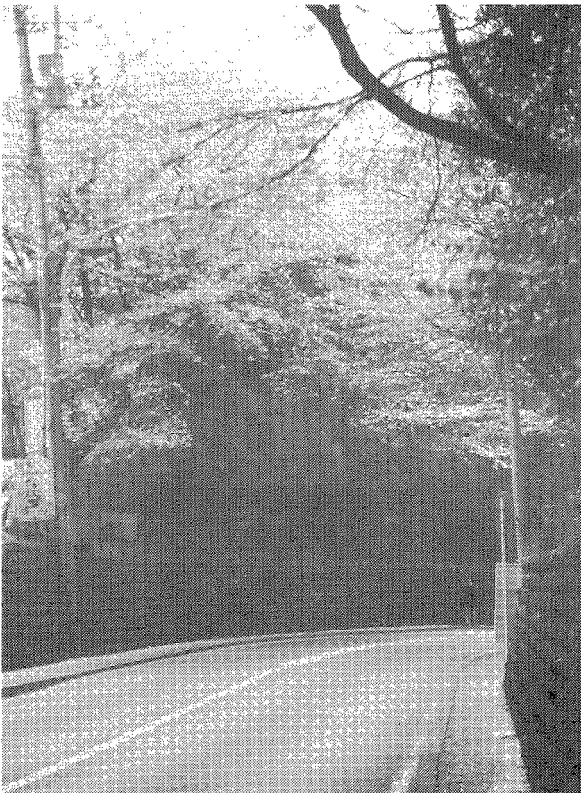
羽村市羽東の通称「山根坂」。ここは多摩川が造成した川岸段丘の上。  
現在、この地では、大規模な区画整理事業が計画されているが、この  
ような素朴な石垣風景を残したいもの。

## 山根坂への道

向かって左側の石垣は、玉石の整層積みで右側よりも後期のもの。片側のみ道路を拡幅したため、左右の積み方が違う。



## 春爛漫のお寺坂

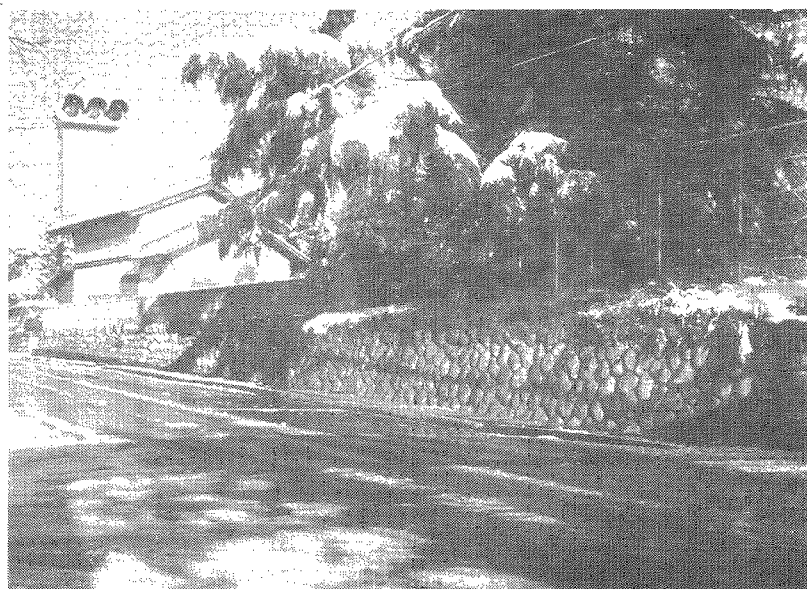


明治27年、青梅鉄道開通直後に地元の青年たちにより開削された坂道。

これまで何度か道路拡幅されたが、そのたびに石垣が積み直され、現在に至っている。

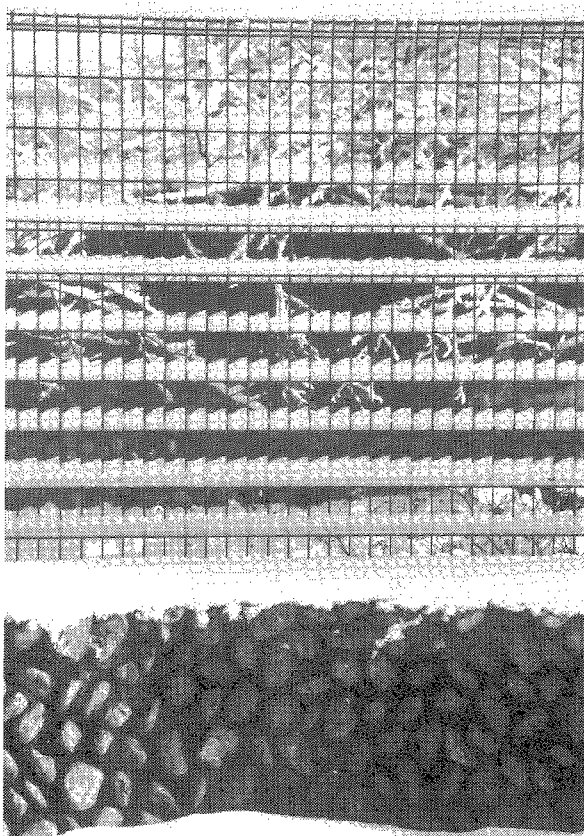


## 雪の奥多摩街道 羽村市・羽東3丁目



玉川上水堀、奥多摩街道沿いには、上水管理に関係した裕福な家が多い。指田、岩波、島田の3家は今でも広い屋敷と立派な石垣が残る。

### 玉川上水柵雪景色

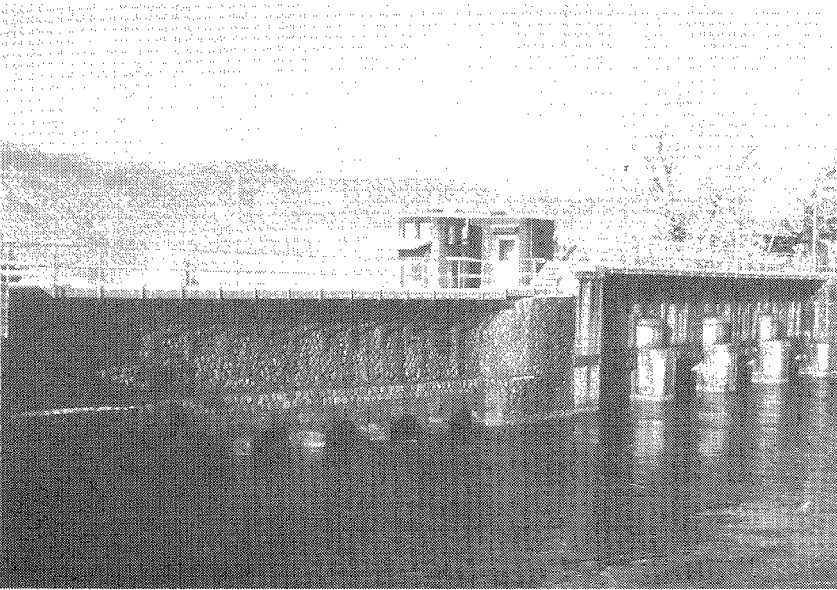


石垣を撤去しないで残しつつ鉄製フェンスを施した配慮を評価したい。普段何げない風景も雪の日は格別だ。

## 増水中の羽村堰



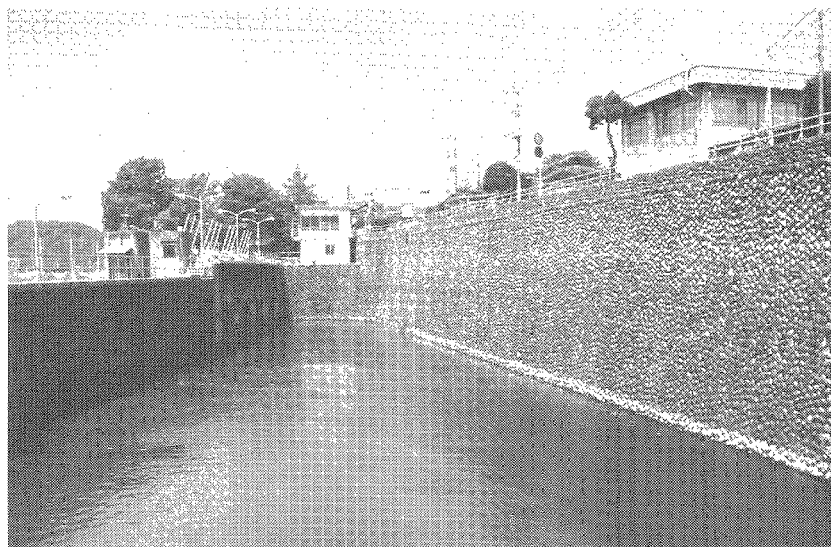
## 玉川上水取入れ口雪景色 羽村市・羽東3丁目先



羽村市を代表する景色。  
石垣は多摩川の象徴ともいえる。  
雪景色も絶景。

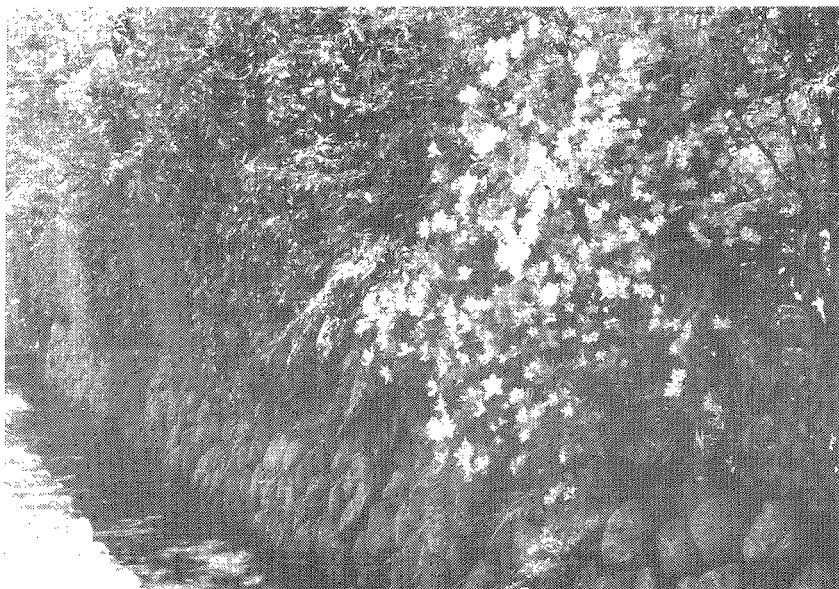
玉川上水歴史環境保全地域の拡張に伴い平成14年度から取水口が新たに指定されたことは評価するが、なぜか羽村堰は除外されている。お役人の考え方は片手落ちな場合が多いものだ。しかし、垂直に切り立った石垣は見事。国指定の文化財として多摩川上水を推挙したい。

## 玉川上水取入れ口 羽村市・羽東先 (01. 8. 18)



羽村南郵便局下の石垣は、この付近では最大の面積を誇る。水道局に工事の記録がなく建設年代不詳。

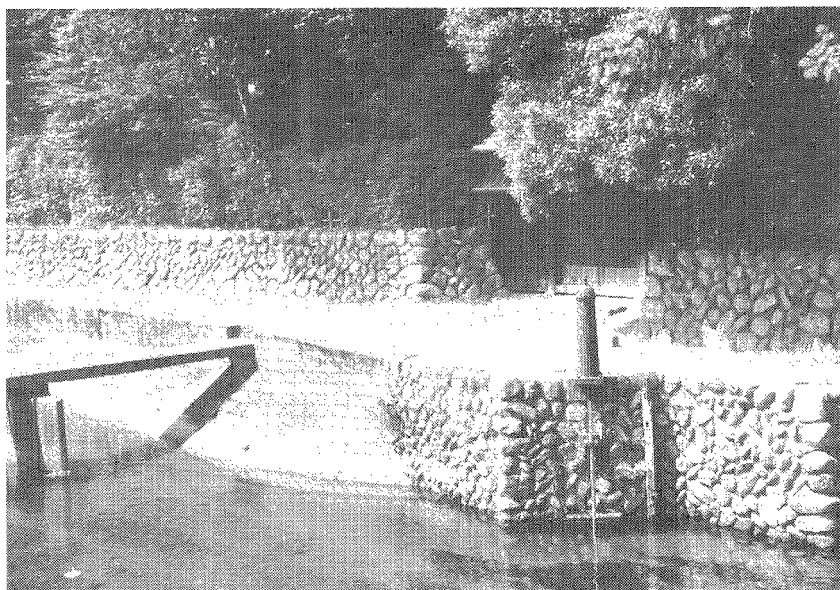
## 拝島大師境内の清水 昭島市・拝島町



不規則に積まれた素朴な石垣が控えめながらいい雰囲気だ。  
ここの清水には、巻貝の仲間でホタルが大好きなカワニナが生息している。  
ツツジの白と鮮やかな緑が目染みる。



## 玉川上水田村分水 福生市・福生 (01.7.10)



田村半十郎家では江戸時代以来、  
今でも玉川上水から引いた水を利用している。



ゆったりと流れる玉川上水。  
右岸の森は田村酒造。  
石垣と水と緑が素晴らしい景色を演出してくれる。

## 福巖寺の祠 昭島市・中神町1丁目



近くの多摩川から拾って来た石を並べただけの  
素朴な石積みが白いツツジや緑との組み合わせがいい。

## 福巖寺の鐘楼

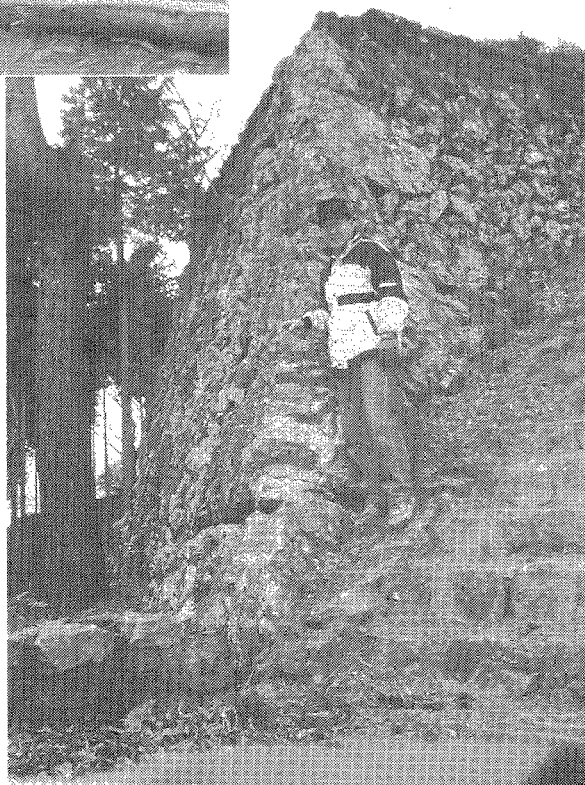


多摩川の石を利用した鐘楼台。  
荘厳さはないが、気持ちが休  
まる風景にしてくれる。  
いつまでも残したい風景だ。

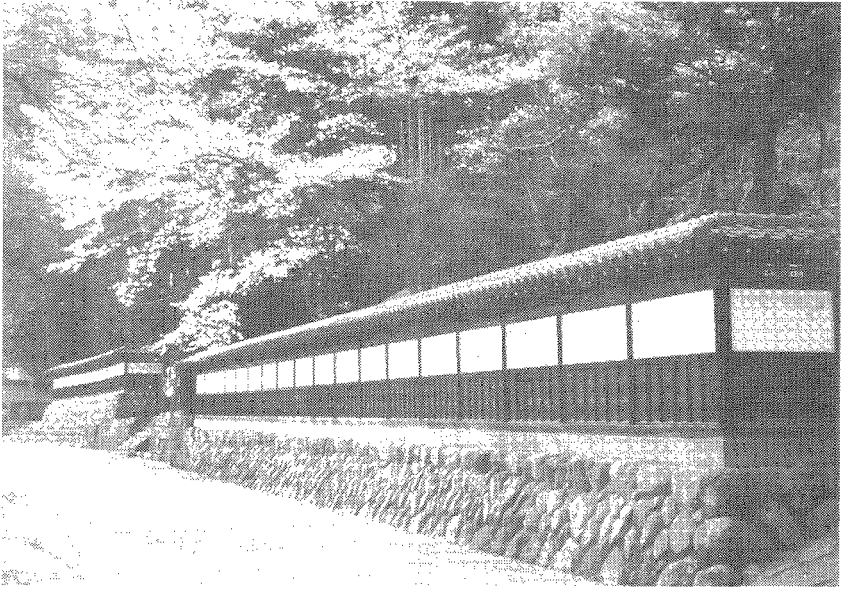
## 日の出山山頂直下 日の出町



山出しの石で築いた石垣が山の崩落をくい止めているだけでなく、山城を想起させるほどの雰囲気がある。水気がないので草木も近寄れない殺風景ながらも山石が山頂付近のイメージを醸し出している。

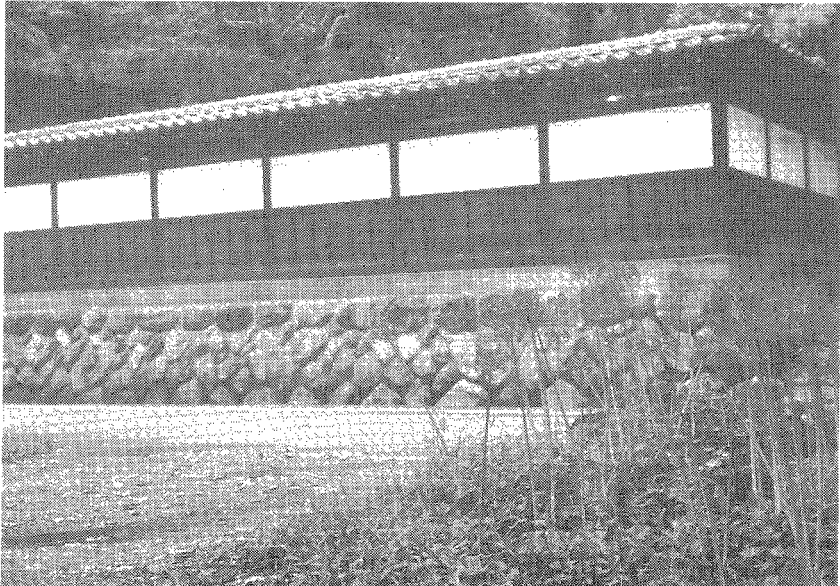


## 春の大悲願寺 あきる野市・横沢



長い豪華な塀に石垣と桜花がすばらしい。  
ここ大悲願寺には、伊奈石製の石塔のほか井戸枠や石段がある。

## 秋の大悲願寺 あきる野市・横沢

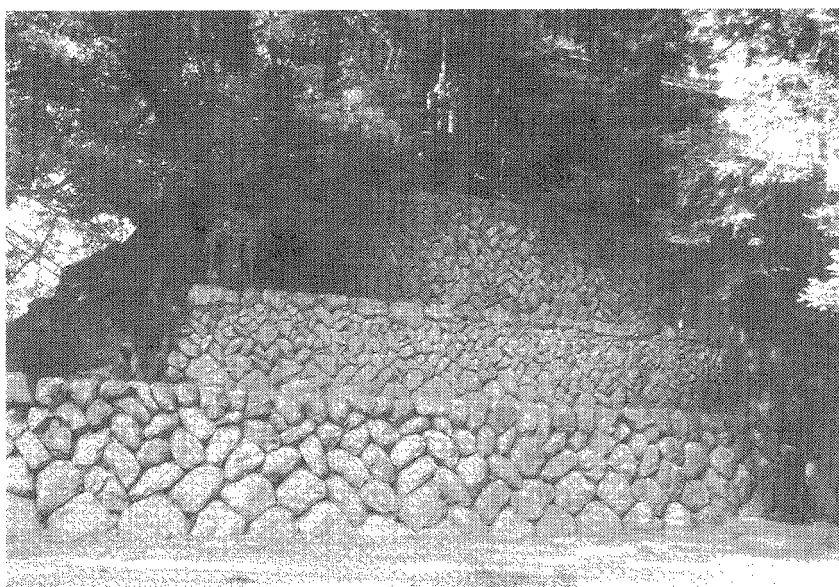


大悲願寺の秋は、伊達政宗ゆかりの白萩が有名。ところが、彼岸花に期待して訪れる写真愛好家も多い。

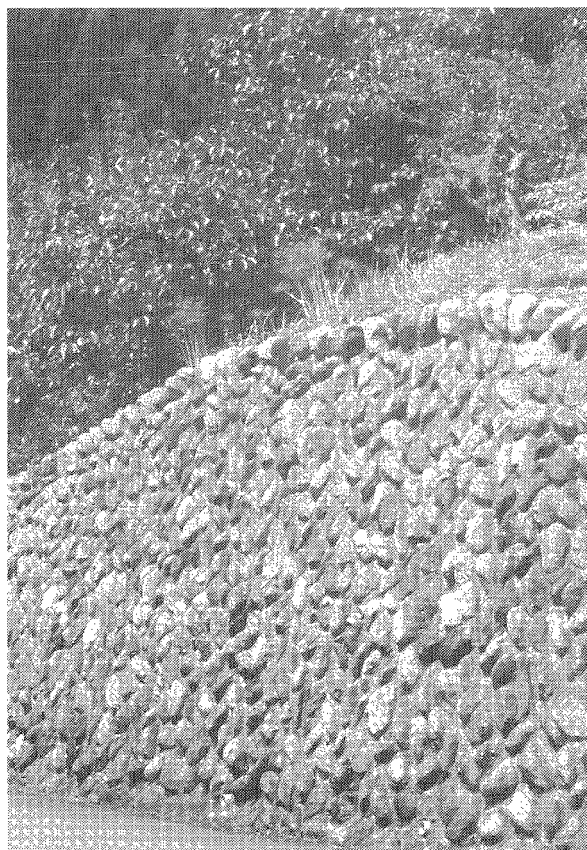


## 熊野神社の石垣 日の出町肝要

村人総出で積んだ石垣。  
村の鎮守の熊野神社は  
村民の心のより処。  
このような積み方は、  
福島県松枝岐歌舞伎の  
観覧席を兼ねた神社の  
境内の石垣と同じ。

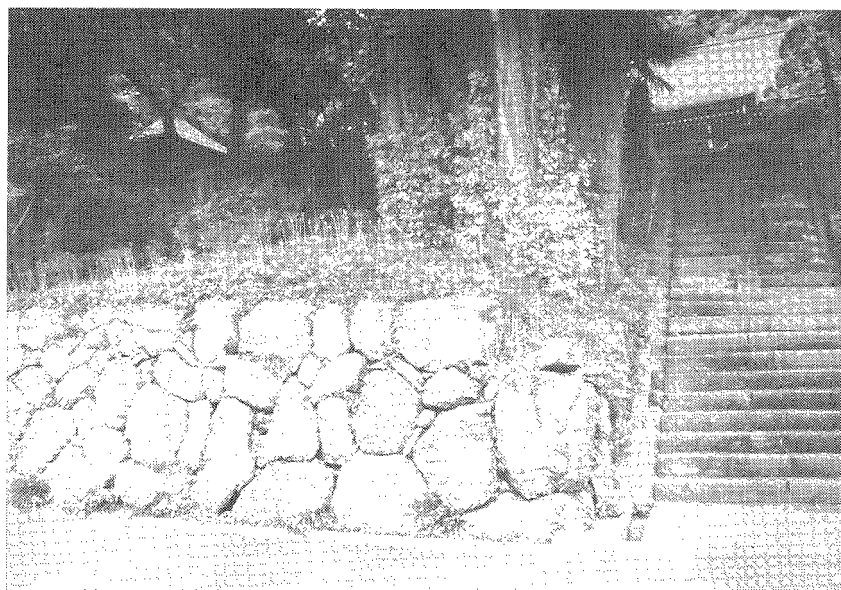


石垣風景だけでもなかなかの景色。そこに春は野草とツツジ。秋は彼岸花がすばらしい。この付近の民家にも素朴な石垣や石積みした清水が湧く池がある。



山の麓に作られた道路の擁壁としての石垣は、緑豊かな山麓地帯によく似合う。

## 天正寺の石垣



## 石垣と彼岸花 あきる野市・高尾



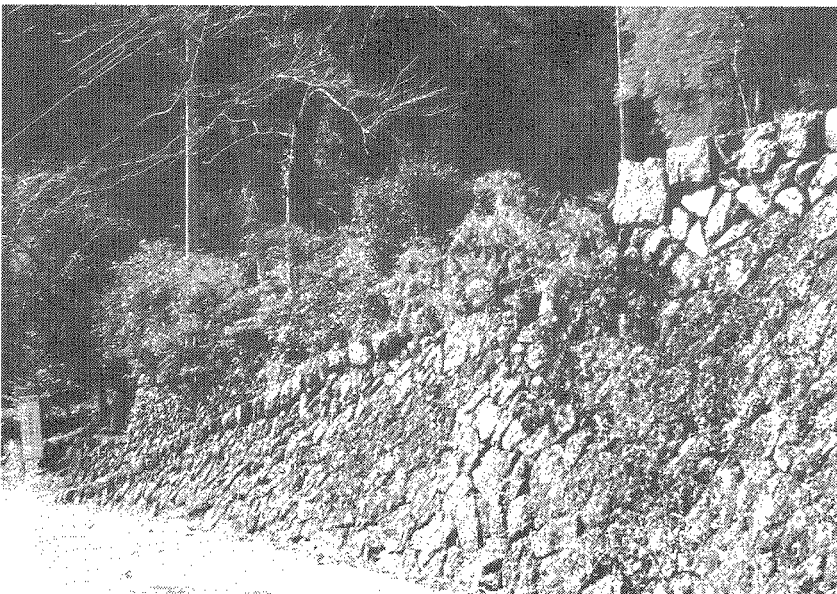
秋川右岸の高尾の大光寺の入り口に古くからの石垣があり、苔むした雰囲気寺院の古さを物語っている。真下を秋川の清流が流れていて、この付近は、かつて伊奈石を採掘した石切り場があった所。

## 大悲願寺付近にて あきる野市・横沢

石垣には茅葺き民家がよく似合う。  
夏、ここの石垣の上に  
松葉ボタンが一面に咲  
くと見事。



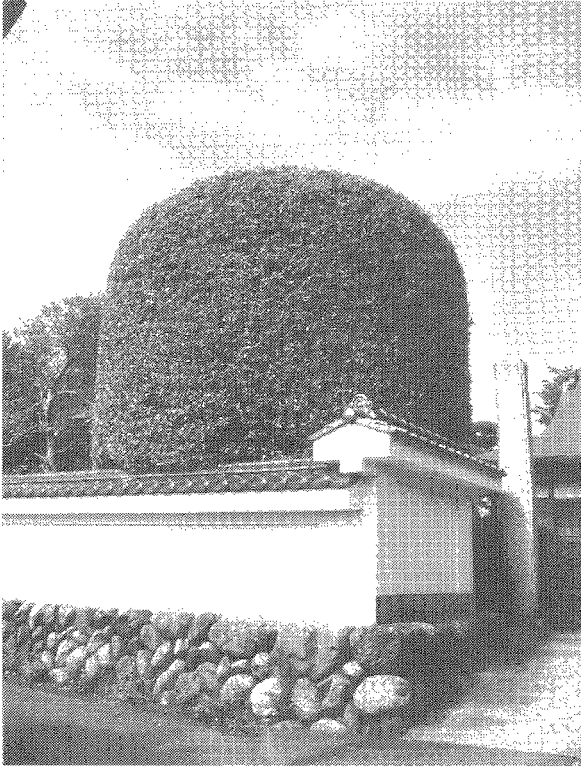
## 八坂神社付近の素朴な石垣



地元の石を寄せ集めて  
村人たちが一つ一つ丹  
念に積み上げた素朴な  
石垣。ここにたたずむ  
と秋の静けさを感じら  
れ、行く秋を惜しむ気  
持ちはひしひしと感  
じられた。こんなひと  
ときを味わえるすばら  
しい所だ。



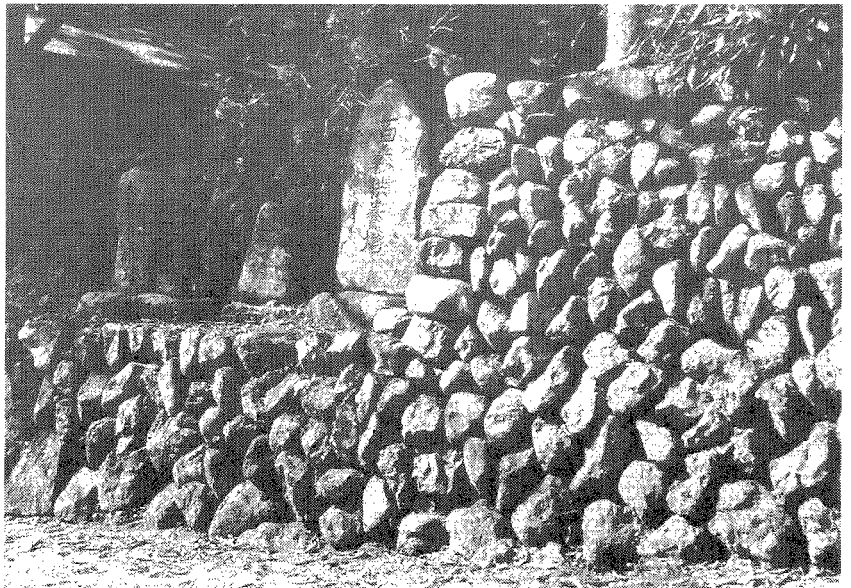
## 観音寺の入り口 あきる野市・淵上



巨大なキンモクセイと  
白壁を支える石垣。

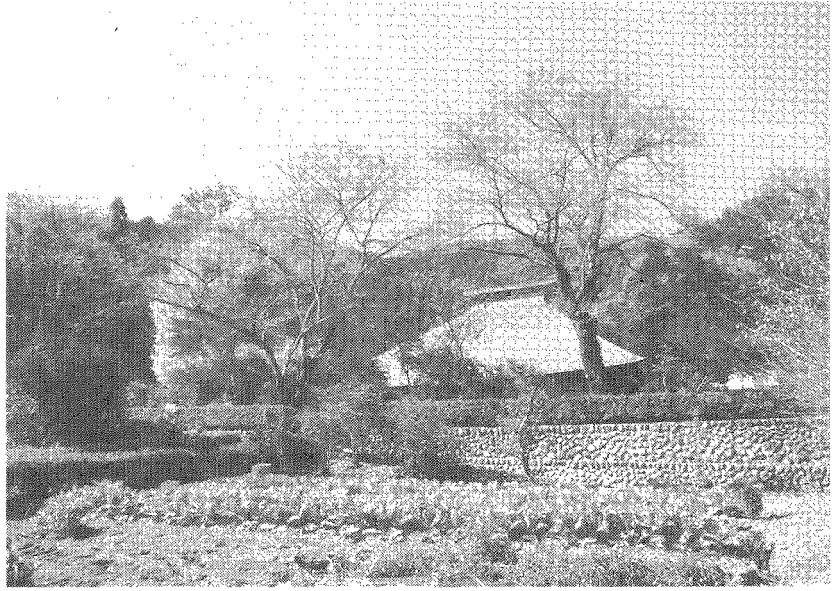
## 養沢川の石を利用した石垣と石仏

この付近の石垣も  
供養塔も自然石を  
利用したもので、  
石垣などは村人た  
ちがひとつひとつ  
積み上げた苦心の  
あとが石の表情か  
ら読み取れるよう  
な気がする。



## 竜珠院遠景

秋川上流の北岸の高台にある竜珠院は1363年開創の古寺。寺の紋は徳川家と同じ三葉葵。石垣は比較的新しく、近年積み替えたもの。奥多摩の山々を背景に環境抜群の地。

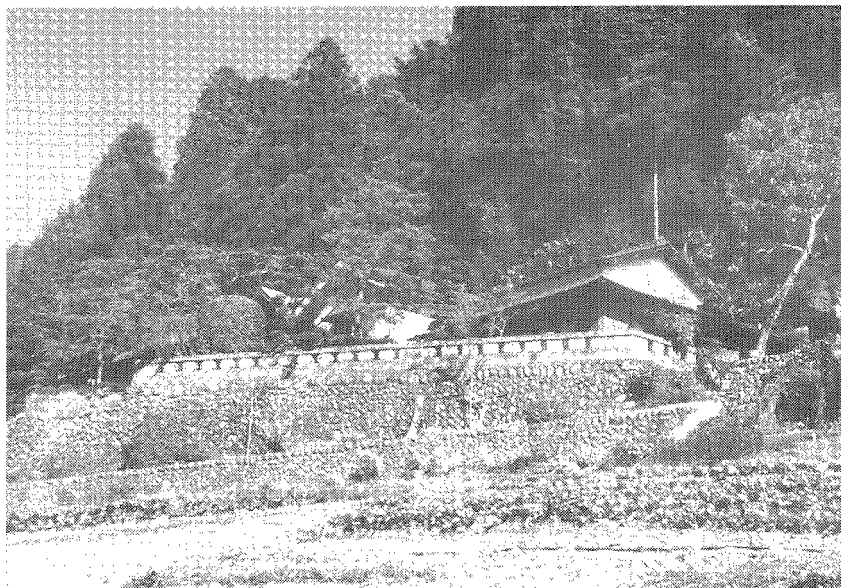


## 山里の秋 あきる野市・乙津



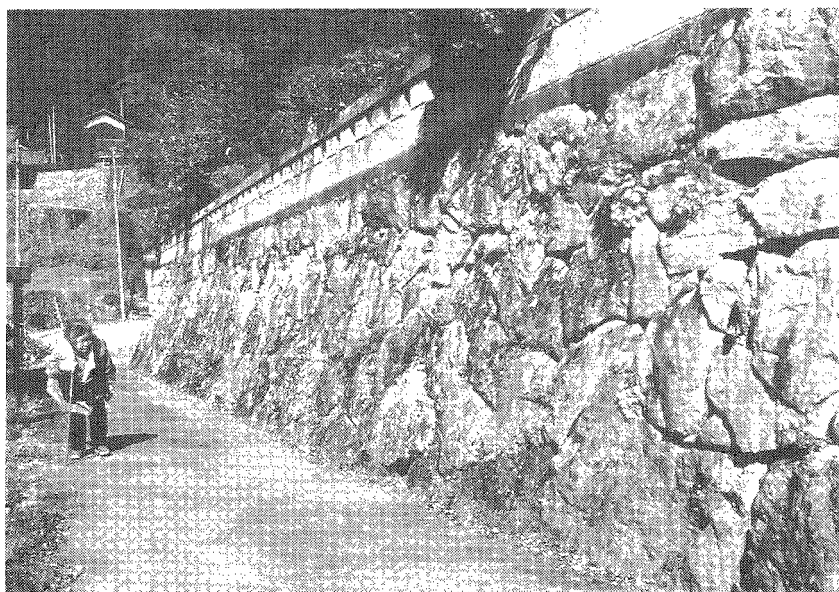
山の上にある禅寺・竜珠院の四季はすばらしい。春の桜、初夏の紫陽花、初秋の秋明菊など。特に晩秋の紅葉と銀杏は圧巻。山の斜面を有効に使うには、石垣で支えるしかない。寺の表も裏も石垣の寺。

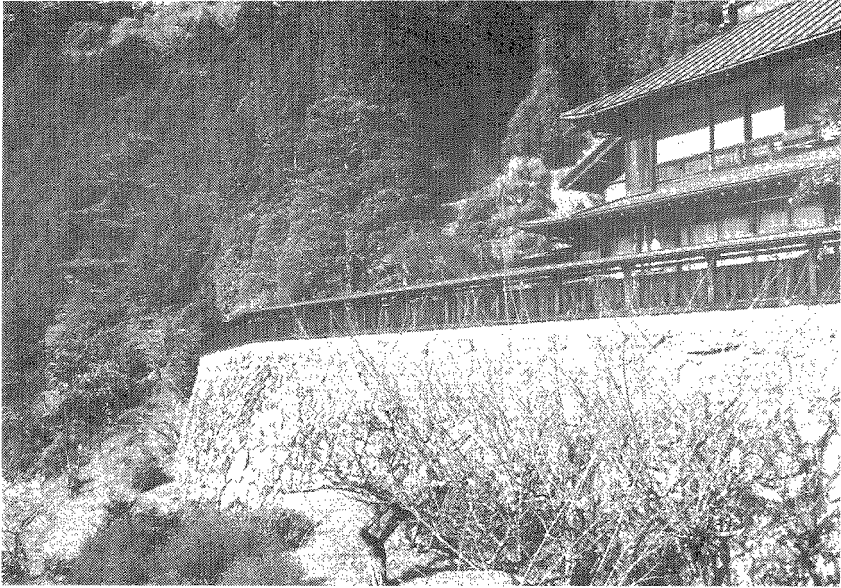
## 旧家の巨大な石垣 あきる野市・養沢 (01. 11. 19)



あきる野市上養沢に入ると山の斜面にへばりつくように民家がある。どこの家も敷地を確保するために強固な石垣を築いている。土地柄が裕福なのか、どこの家も立派な石垣ばかりだ。さすがに公道に面した所は山の石を利用したものが多いよう。

山奥にこんな大きな石を積んだ石垣がある。養沢では色々な石垣を見ることができる。



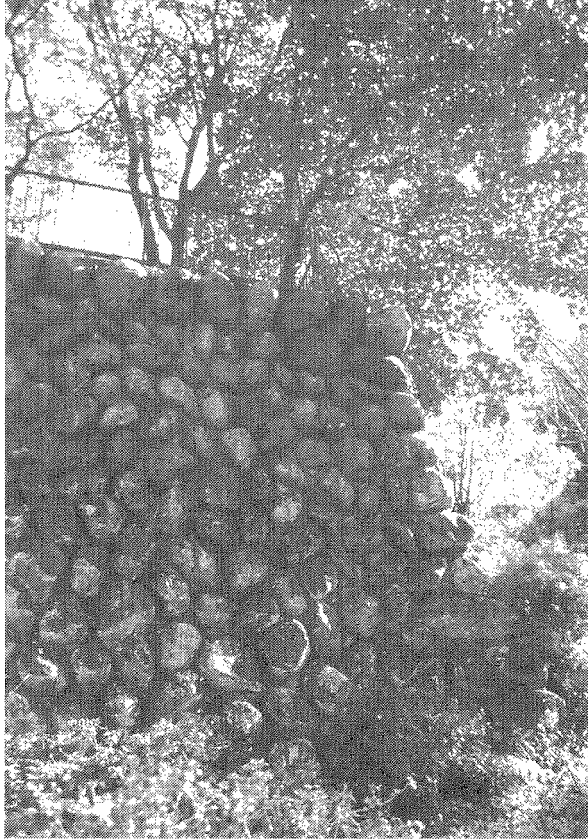


上養沢付近では、山の麓に屋敷を構えて、  
広い敷地を確保するために高い石垣を築  
いて平地を造成する家が多い。

ここ谷合家の石垣に用いている石は、大  
小様々であるが比較的岩のような大きな  
ものが目に付く。

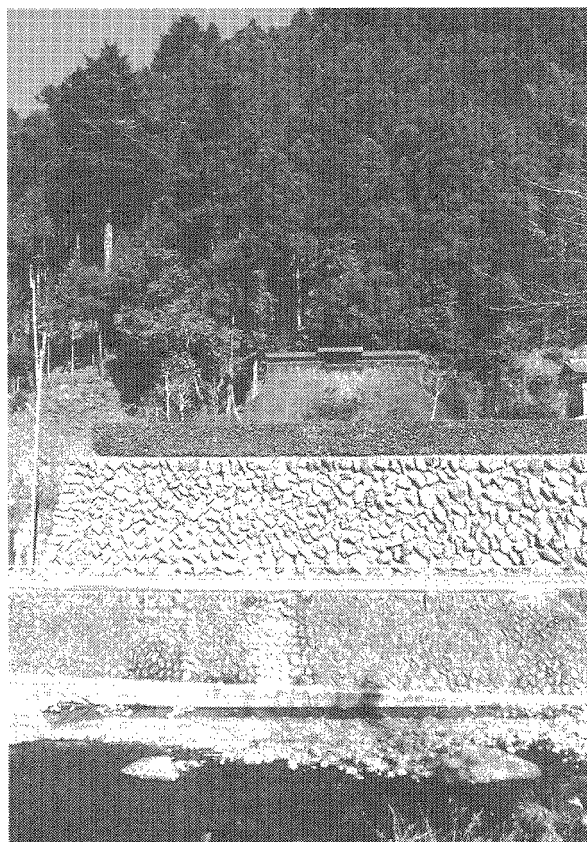
石垣というよりもむしろ擁壁の類いと見  
てよい。

## 秋川上流の養沢川の秋景色



秋川上流の養沢川流域は、旧小宮村。  
この地は、どこに行っても石垣ばかり。  
ほとんどが地元の石を用いているが、  
ここのように丸石のものや巨岩を築いたものも少なくない。

## 養沢川の川べりの民家



川に石垣、塀に石垣、裏山に石垣。  
まさに石垣の中に人が住んでるよ  
うな石垣に囲まれた生活。斜面地  
に暮らす人々の苦勞と生活の知恵  
が伺える。



## あ と が き

多摩川流域での所在調査では、①歴史的に見て価値のあるもの、②景観上優れたもの、③大規模なもの、④平成時代に築かれたものに分けて実施した。

☆歴史的に価値あるものとしては、奥多摩町日原倉沢神社跡、奥多摩町川野の吉野家跡、青梅市二俣尾の海禅寺、青梅市大柳の荒井家、羽村市羽東先の羽村堰及び玉川上水、青梅市宮の平の石灰工場跡ほか。

☆景観上すぐれたものとしては、奥多摩町日原の東日原付近、青梅市吹上の切り通し、福生市福生の玉川上水田村分水付近、秋川上流の養沢川流域の地域ほか。

☆規模が大きいものとしては、青梅市二俣尾の青梅街道の青溜通り入り口付近、青梅市河辺の段丘崖、羽村市羽東先の玉川上水取入れ口ほか。

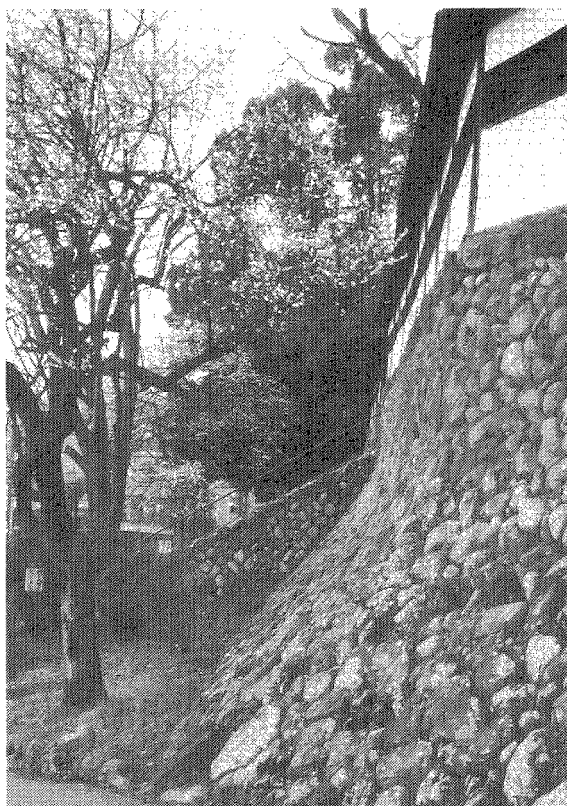
☆平安時代に積まれたものとしては、青梅市の梅郷、黒沢川、天寧寺境内の石垣などがある。

以上の石垣のうち、新しく積まれた石垣については、多摩川の石・砂利は、昭和38年以降、採取禁止きため、多摩川の石を用いていないと思われるが、地形や景観に配慮して意図的に石垣を採用したことを評価した。

これらの石垣は、多摩の代表的な文化遺産あるいは景観として後世に残すべく関係自治体教育委員会や文化財保護審議会委員等にその存在を理解していただき、石垣保存の機運を高めていくようさらに努力したいと考えている。

奥多摩町や青梅市には、歴史ある石垣があり、今後、文化財としての価値を見直し指定への動きを期待したい。特に奥多摩町では、地元の郷土研究会や山村文化研究会などが石垣への関心を示しており、石垣見直しの機運が高まりつつあることを感じた。

多摩川流域や秋川流域には、まだまだ石垣を見ることができているが、多摩地域にあっては、都道や国道の擁壁をはじめ大規模建設工事などで石垣が用いられることは少なくなりつつある。しかし、青梅市のように平成時代になってからも河川の擁壁や観光地の道路の擁壁に意図的に石垣を用いている自治体もある。今回の写真展開催に伴い熱心な観覧者が多く非常に関心のあることが分かったことは大きな収穫であり、今後も古い石垣の文化財的価値を大いにPRしていきたいと考えている。



青梅市・海禅寺の石垣

第2001~37号

平成13年度多摩川およびその流域の環境  
浄化に関する調査・研究

『多摩川流域の  
石垣調査』

調査研究者：羽村市羽東2-17-52

羽村郷土研究会 岡崎 学

研究期間：2001年4月1日~2002年3月31日

---

「た ま がわりゅういき いしがきちようさ  
多摩川流域の石垣調査」

(研究助成・一般研究VOL. 24-No.138)

著 者 おか ざき さとる  
岡 崎 学  
発行日 2002年3月31日  
発 行 財団法人 とうきゅう環境浄化財団  
〒150-0002  
渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)  
TEL (03)3400-9142  
FAX (03)3400-9141

---